

第269号

目 次

学 長 告 辞..... 2	永年勤続者表彰..... 23
昭和60年度富山大学卒業証書, 修了証書並びに	退職(予定)者を囲む懇談会..... 23
修士学位授与式 学長告辞..... 2	海外渡航者..... 24
関 係 法 令..... 3	廃液処理施設及び第3体育館の完成..... 25
諸 会 議..... 5	学内レクリエーション〈囲碁大会, 将棋大会〉... 27
学 事..... 6	昭和60年度全国公務員レクリエーション共同行
外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ..... 6	事富山地区ボウリング大会..... 27
昭和61年度富山大学入学者選抜について..... 10	寄 稿〈遼寧大学のこと〉(その2)..... 27
昭和60年度富山大学卒業証書, 修了証書並びに	職 員 消 息..... 34
修士学位授与式の挙行..... 12	主 要 行 事..... 37
財団等による研究助成関係の募集のお知らせ..... 14	資 料..... 39
人 事 異 動..... 17	昭和60年度卒業(修了)者数..... 39
学 内 諸 報..... 23	昭和61年度授業日程表..... 40
教育学部附属教育実践研究指導センター長の	
改選..... 23	

学 長 告 辞

昭和60年度富山大学卒業証書，修了証書
並びに修了学位記授与式 学長告辞

ただいま，卒業証書，修了証書あるいは修士学位記を授与されました1,187名にのぼる諸君は，富山大学における所定の課程を終え，本日ここにめでたく卒業の日を迎えられた方々でありまして，教職員一同心から祝福を申し上げます。諸君の喜びもさることながら諸君を今日迄養育された御父兄の方々のお喜びはさぞかしと推察致します。

さて，生涯教育にくらべると短い期間かも知れませんが，16年以上におよぶ組織的，系統的教育を受け学習に没頭出来た学校教育と云うものに，諸君の中のほとんどの人が別れを告げる時が来たわけでありまして。今学窓を去るにあたり，諸君の胸に去来する感慨はどんなものでしょうか。特に自己の意志と責任において自由闊達に勉学に，あるいはスポーツやその他の課外活動に打込んだ大学の四年間において16年間の集大成として，物の見方なり考え方を或程度身につけた事と思いますが，社会に出るに当り希望と不安の同居する複雑な心境であろうと思えます。

なるほど，諸君を迎える今日の社会はまさに激動の社会であります。ご承知のように急激な円高により輸出産業はその対応に四苦八苦であります。諸君の就職先が内定した頃とは大変な違いであります。然しこれは円高の速度が大きかった為で適当な所に安定すれば必ずその対応が出来ることは，過去の石油ショックを乗り切った事をみてもわかります。問題は貿易摩擦における対日批判や非難にどう対処して行くかであります。ご承知のように第1はその閉鎖性であります。自分は集中豪雨的輸出で稼ぎまくっているのに自国市場は閉ざしていると云う非難であります。第2は日本株式会社論であって，日本政府と産業界は一体であり輸出産業には補助金や税制の優遇を与え，輸入については政府が市場を閉ざして国内産業を保護していると云うことであります。第3はウサギ小屋論であります。貧弱な住宅や社会資本の下でひたすら企業のために個人の生活を犠牲にして安価な製品をつくり失業を世界



に輸出しているとの非難であります。第4は防衛タダ乗り論でありまして，防衛費にGNPの1%以下しか使わず，世界の平和と安全に対する責任を果していないと云う非難であります。第5は口先論で，日本は市場開放の口約束だけで実行を伴わないと云われております。こうした批判，非難が渾然一体となって日本はフェアでないと云う一大合唱を形づくっているわけであります。

これらの非難には不当なものもありますが，世界中から原料とエネルギー資源を買い集め，世界中に製品を送り出す日本の繁栄システムと国際貿易をめぐる動向との間の緊張関係を充分反省しなければなりません。そして21世紀への道程において我々は絶えずこの問題に対する適切な対応を真剣に検討して行かねばなりません。

加工貿易のシステムは日本が戦前，戦後を通じて発展させて来た，いわば国是とも云えるもので今後も発展をはからなくてはなりません。新技術，新素材の出現や情報化の進展などによって，これまでの原料生産国と製品輸出国と云ったはっきりした分化が次第に消滅して行き，原料やエネルギー資源の存在するところに工場がつくられて行く方向にあります。鉄鋼やアルミ地金などその例であります。さらに，新興工業国が製品輸出国として市場に進出して来ます。韓国の小型車エクセルが米国市場に進出するのがその例であり

ます。このように加工貿易に依存する我国の前途はきわめて多難であります。諸君が社会の中堅として活躍されるのは21世紀でありましょう。そこでは一国の繁栄は世界全体の繁栄の中にしか求められない事を充分考慮した上で、我国の将来をどう模索して行くか、諸君に期待する所多大なものがあります。

ところで、これから殆んどの方が新入社員として社内教育を受けることになると思います。社内教育と云うのは「社員の能力向上と働く意欲の高揚をはかり会社の発展に寄与し、ひいては社会の繁栄に貢献する」と云う明確な目的の下に大学で基礎を学んだ学生を徹底して再教育することです。企業が最近の大学卒業者にいんでいる不満は、創造性がない、自立心、行動力が欠けている、バイタリティとチャレンジ精神がない等であります。これらは要するに、“やる気”がないことをなげいているのであります。スプーンで食べさせて貰うような教育に慣れていて自分の頭で考えたことがないから独創性がないのだとも云われています。責任の一端はこれまでの教育にあるかもしれませんが、これからは諸君の責任において、新しい世界を切り開くべく自己変革に意欲を燃して欲しいと思います。その目標の一つとして、将来もう一つの専門と申しますか得意とする分野を独学または研修会への参加などにより積極的に修得することを強くすすめたいと思います。同じ分野の別のセクションでもよし、全く異った分野でもよいと思います。これからのハイテク時代では境界領域や異業種間の交流は必至であります。新素材の用途の開発や、コンピューターのソフトの開発で高い能力を発揮し素晴らしい仕事をした人の

中には別の専門分野の人が少なくないと云われています。

また会社に入ると、事務系であろうが技術系であろうが、それぞれの職場で必ずQC（Quality Control 品質管理）サークル活動が行われます。我国の自動車工業が今日の隆盛をみたのは徹底した品質管理をやったおかげだと云われており、諸外国から視察に来る状態であります。諸君も率先してこの活動に参加して欲しいと思います。それは管理技術の実際を身につけるばかりでなく、その手法の数々が問題解決能力や創造性を養う上に非常に有益な示唆を含んでいると思うからであります。

最後になりましたが、現在は国際関係や経済などすべて先が読めない時代であります。また、物よりこのころの時代、精神の構築の時代だといわれています。人間疎外の科学技術の発達により、わずかな経済的余裕を手に入れた半面、精神的豊かさを失ったと感じておる人が少なくありません。我々は貧しさに対するモラルは持っているが、余裕ができてからの歴史が短かいせいか、豊かさに対するモラルを持っていないと云われております。今日マスコミに登場する陰湿ないちめや安易な自殺等家庭や教師が積極的に対応しなければならぬ問題が諸君の前途に山積してあります。この様な不透明な時代を生き抜くために必要なものは、高学歴などではなく体力と我慢強さだと極論する人もいます。折角大学を出た諸君の奮起をうながすと共に、その反証を挙げて頂くよう切望します。どうぞくれぐれも健康に留意し頑張ってください。

これをもって、卒業生諸君への私のはなむけの言葉と致します。

—職員会館の宿泊の御案内—

- ◎利用日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!
- ◎申し込み…利用日の2日前までに!!
- ◎門限時刻…午後10時………御協力を………!!

関 係 法 令

政 令

○学校教育法施行令の一部を改正する政令

(35)

○公立義務教育諸学校の学級編制及び教職

3・25

員定数の標準に関する法律施行令の一部を改正する政令の一部を改正する政令(36)	3・26
○公立高等学校の設置、適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律施行令の一部を改正する政令の一部を改正する政令(37)	3・26
○雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を促進するための学働省関係法律の整備等に関する法律の施行に伴う関係政令の整備に関する政令(50)	3・28
○国民年金法施行令等の一部を改正する等の政令(53)	3・28
○国民年金法等の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置に関する政令(54)	3・28
○国家公務員等共済組合法施行令等の一部を改正する等の政令(55)	3・28
○国家公務員等共済組合法等の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置に関する政令(56)	3・28

府 令

○寒冷地手当支給規則の一部を改正する総理府令(総理8)	3・8
-----------------------------	-----

省 令

○雇用保険法施行規則の一部を改正する省令(労働4)	3・3
○通算年金通則法の規定による通算対象期間の確認に関する省令を廃止する省令(大蔵・文部・厚生・農林水産・自治1)	3・29
○国民年金法施行規則等の一部を改正する省令(厚生17)	3・29
○文部省設置法施行規則の一部を改正する省令の一部を改正する省令(文部6)	3・31
○国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令(文部7)	3・31
○公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律施行規則等の一部を改正する省令(文部9)	3・31
○国家公務員等共済組合法施行規則の一部を改正する省令(大蔵8)	3・31

規 則

○人事院規則1-11(国家公務員等共済組合法等の一部を改正する法律(昭和60年法律第105号)の施行に伴う関係人事院規則の整理に関する規則の制定(人事院1-11))	3・8
○人事院規則17-0(管理職員等の範囲)の一部を改正する規則(人事院17-0-5)	3・10
○人事院規則10-7(女子職員及び年少職員の健康、安全及び福祉)の一部を改正する規則(人事院10-7-1)	3・15
○人事院規則15-11(職員の休暇)の一部を改正する規則(人事院15-11-1)	3・15
○人事院規則15-12(非常勤職員の勤務時間及び休暇)の一部を改正する規則(人事院15-12-1)	3・15
○会計検査院事務総局事務分掌及び分課規則の一部を改正する規則(会計検査院1)	3・20
○人事院規則8-18(採用試験)の一部を改正する規則(人事院8-18-3)	3・20
○人事院規則16-0(職員の災害補償)の一部を改正する規則(人事院16-0-2)	3・31
○人事院規則16-4(補償及び福祉施設の実施)の一部を改正する規則(人事院16-4-2)	3・31

告 示

○昭和61年度大学入学資格検定の施行期日等を告示する件(文部31)	3・7
○勤労者財産形成年金貯蓄に係る金融機関の金利の最高限度に関する件の一部を改正する件(大蔵40)	3・12
○昭和61年度の司書及び司書補の講習を委嘱した件(文部37)	3・20
○出納官史事務規程第16条に規定する外国貨幣換算率を定める等の件の一部を改正する件(大蔵57)	3・27
○児童手当法第21条第2項の規定に基づき昭和61年度における拠出金率を定める件(厚生51)	3・27

諸 会 議

教養部運営協議会（3月10日）

（審議事項）

- (1)富山大学教養部規則の一部改正(案)について

第13回評議会（3月12日）

（報告事項）

- (1)昭和60年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)修了者の認定について
- (2)昭和61年度富山大学大学院人文科学研究科(修士課程)学生募集要項について
- (3)教官人事について(人文学部, 教育学部, 経済学部, 教養部)
- (4)学生の動向について

（審議事項）

- (1)昭和61年度富山大学入学者選抜試験合格者の判定について
- (2)昭和60年度卒業生及び修了者の認定について
- (3)富山大学学則の一部改正(案)について
- (4)富山大学人文学部規則の一部改正(案)について
- (5)富山大学経済学部規則の一部改正(案)について
- (6)富山大学教養部規則の一部改正(案)について
- (7)富山大学専攻科規則の一部改正(案)について
- (8)富山大学大学院学則の一部改正(案)について
- (9)富山大学学位規則の一部改正(案)について
- (10)富山大学人文科学研究科規則の制定(案)について
- (11)富山大学人文科学研究科委員会規則の制定(案)について

第5回大学院委員会（3月12日）

（審議事項）

- (1)富山大学大学院学則の一部改正(案)について
- (2)富山大学学位規則の一部改正(案)について
- (3)富山大学人文科学研究科規則の制定(案)について
- (4)富山大学人文科学研究科委員会規則の制定(案)について
- (5)昭和61年度富山大学大学院人文科学研究科(修士

課程)学生募集要項について

- (6)富山大学大学院人文科学研究科(修士課程)外国人留学生選抜に関する申し合せについて
- (7)昭和60年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)修了者の認定について
- (8)その他

第7回入学者選抜方法研究委員会（3月18日）

（審議事項）

- (1)受験機会の複数化のグループ分けについて

第9回事務協議会（3月20日）

（審議事項）

- (1)当面の諸問題について

廃水処理室運営委員会専門委員会（3月24日）

（審議事項）

- (1)今後の施設利用について

廃水処理室運営委員会（3月26日）

（審議事項）

- (1)今後の施設の運用について
- (2)運営委員会規則等の廃止・制定について

第6回附属図書館商議会（3月26日）

（報告事項）

- (1)地図情報室小委員会について

（審議事項）

- (1)外国雑誌購入費について

第54回構内交通対策委員会（3月27日）

（審議事項）

- (1)富山大学構内交通規制に関する暫定実施細目の一部改正について

学 事

外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ

毎年、外国の政府・研究機関・団体等から留学生・研究員等の募集が数多く行われ本学にも多くの通知が入っていますが、参考までに昭和60年度に通知のあったものをまとめてみました。

なお、これらの募集通知については、毎年一定しているものでなく、その年度によって若干の変更あるい

は募集しないものもあり、またこの他にも各種財団等から募集がある場合もありますので、この点お含みおきの上参考にして下さい。

募集要項等の詳細は、各部署の庶務係にお問い合わせ下さい。

関係国	名 称	募集人員	専 攻 分 野	応 募 資 格 (共通事項) ・日本国籍を有する者 ・十分な外国語の能力を有する者 ・心身共に健全な者	待 遇	関 係 機 関 (募集通知時期)
アイルランド	アルランド政府奨学金留学生	1名	制限なし	・大学卒業者	・期間 8ヶ月間 ・奨学金 月額 300アイルランドポンド ・授業料、登録料支給	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日アイルランド大使館 (3月)
アジア諸国 (インドネシア、バングラデシュ、スリランカ、インドネシア、大韓民国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、モンゴル、トルコ、エジプト、中国、香港、バプアニューギニア)	アジア諸国等派遣留学生	9名程度	留学対象国の言語、歴史、文化又は社会の分野(ビルマは言語の分野のみ)	・大学院博士課程若しくは修士課程に在学している者又は大学を卒業後研究に従事している者 ・35歳未満の者	・期間 2年間 ・奨学金 月額 100,000円 ・一時金 年額 30,000円 ・往復航空賃支給	文部省学術国際局留学生課 (1月)
アメリカ合衆国	N I H 奨励研究員	6名	医学、生物学、生化学、生理学、歯学、薬学及び獣医学等関連分野	・博士号取得者 ・35歳以下の者	・期間 1年間 ・滞在費 年額 18,000~22,000ドル ・往復旅費支給	日本学術会議 (12月)
フ ル ブ ラ	大学院留学プログラム		人文科学、社会科学、自然科学、応用科学(米国の研究、日本の研究、太平洋地域の政治・経済関係、現代技術社会の諸問題、教育の国際化の領域が望ましい。)	大学院在籍の学生、博士号を有さない若手大学教員を対象とする。 ・大学卒業者 ・34歳以下の者優先	・期間 1年間 ・往復旅費、生活費、授業料、家賃等支給	日米教育委員会 (3月)

イ ト 奨 学 生	若手研究員プログラム		同 上	4年制大学の専任の助教授、講師又は助手を対象とする。 ・3ヶ月以上継続した渡米経験のない者	・期間 9ヶ月間 ・往復旅費、生活費、家賃等支給	
	上級研究員プログラム		人文・社会科学分野	4年制大学の専任の教授又は助教授を対象とする。 ・米国人との共同研究を特に奨励 ・55歳以下の者優先	・期間 3～9ヶ月間 ・往復旅費、生活費、家賃等支給	
	大学教員を対象とした旅費支給奨学金		人文科学、社会科学、自然科学、応用科学	・4年制大学の専任教員で米国高等教育研究機関ら招へいを受けている者 ・55歳以下の者優先	・往復旅費支給	
イスラエル	イスラエル政府奨学金留学生	若干名	制限なし	・大学卒業者（含む見込者） ・35歳未満の者	・期間 9ヶ月間 ・奨学金 月額 250ドル ・授業料免除	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日イスラエル大使館 (12月)
イタリア	イタリア政府奨学金留学生	17名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術（美術、音楽等）	・大学卒業者	・期間 1学年間（場合によっては2学年間） ・滞在費 月額 600,000リラ ・往復航空券支給 ・健康傷害保険料支給	(財)日本国際教育協会留学相談センター イタリア文化会館 (2月)
インド	インド政府奨学金留学生	6名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	・大学卒業者（含む見込者）	・期間 2年間 ・滞在費 月額 600～750ルピー ・書籍代支給 ・授業料、受験料等納付金免除	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日インド大使館 (1月)
オーストリア	オーストリア政府奨学金留学生	4名	人文科学、社会科学、自然科学	・大学の学部2年次修了以上の学歴を有する者 ・20歳以上35歳以下の者	・期間 9ヶ月間 ・奨学金 月額 5,700～7,200オーストリアシリング ・渡航費一部補助	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日オーストリア大使館 (1月)
カナダ	カナダ大学院留学	約5名	・人文・社会科学におけるカナダ研究及びカナダ比較研究 ・カナダの音楽、美術、工芸、建築、彫刻、デザイン及び芸術理論 ・自然科学と工学の諸分野でカナダなければ研究できないもの	学位奨学金 カナダの大学院の修士又は博士課程で研究を希望する35歳までの学士号又は修士号の取得者（取得予定者を含む。）	・期間 1年間 ・往復航空賃、支度金、授業料支給 ・毎月600ドルの経費と生活費、医療保険費支給	カナダ大使館 (6月)
				研究奨学金 大学院の修士又は博士課程に在籍する35歳までの者で、課程修了のためカナダの大学院へ留学を希望する者	・期間 8ヶ月～1年間 ・往復航空賃、支度金、授業料支給 ・毎月600ドルの経費と生活費、医療保険費支給	
				研究資金 博士号又は同等の学問的地位の取得者 芸術家の場合は長年一流の芸術家として活動を続けている者	・期間 4ヶ月～1年間 ・往復航空賃、支度金支給 ・毎月1,200ドルの研究費と生活費、医療保険費支給	

スイス	スイス政府奨学金留学生	3名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院在学者又は大学卒業後大学で教育・研究に従事している者 ・35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 9ヶ月間 ・奨学金 月額 900~1,250スイスフラン ・授業料免除 ・疾病, 傷害保険付保される ・帰国旅費支給 	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日スイス大使館 (10月)
スウェーデン	スウェーデン政府奨学金留学生	1名	人文科学, 社会科学, 自然科学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者(含む見込者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 8ヶ月間 ・奨学金 月額 3,510スウェーデンクローネ ・登録料免除 ・傷害保険付保される ・渡航費一部支給 	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日スウェーデン大使館 (12月)
タイ	Swedish Institute 奨学金留学生		スウェーデン以外の国においては, 十分な研究ができない分野	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢制限なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 3~4ヶ月間から3学年以内 ・奨学金 月額 3,510スウェーデンクローネ 	Swedish Institute (10月)
タイ	タイ政府奨学金留学生	フェロースhip 6名 スカラースhip 4名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 美術	<ul style="list-style-type: none"> ・フェロースhip 大学卒業者(含む見込者) ・スカラースhip 高校卒業者「含む見込者」で30歳を超えない者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェロースhip 期間 2年間1給費 年額 40,000バーツ ・スカラースhip 期間 1~6年間 給費 年額 20,000バーツ 	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日タイ大使館 (1月)
チェコスロバキア	チェコスロバキア政府奨学金留学生	4名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 2年間 ・奨学金 月額 1,400チェコクラウン ・医療費無料 	駐日チェコスロバキア大使館 (7月)
デンマーク	デンマーク政府奨学金留学生	6名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学3年次以上在学者及び卒業生 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 8ヶ月間 ・奨学金 月額 3,890デンマーククローネ ・帰国旅費一部支給 ・健康保険付保される 	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日デンマーク大使館 (12月)
ドイツ連邦共和国	ドイツ学術交流会(DAAD)奨学金留学生	35名	独語, 独文学, 人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術(音楽, 美術)	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和28年10月2日以降に出生の者 ・人文・社会科学, 独語, 独文学専攻原則として修士課程在学者又はそれ以上の学歴を有する者 ・自然科学専攻修士課程修了者(含む見込者)ただし, 医学・歯学専攻は学部卒業生 ・音楽実技専攻学部卒業生(含む見込者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1年間 ・給費 月額 870~980ドイツマルク ・家族手当, 支度料, 専門書籍代, 往復旅費支給 ・入学金, 授業料, 実験費等免除 ・傷害及び個人賠償責任保険付保される 	(財)日本国際教育協会留学相談センター DAAD東京事務所 (8月)
	ドイツ語担当教員のドイツ派遣	15名	ドイツ語教育	<ul style="list-style-type: none"> ・国立の大学等においてドイツ語教育を担当する者 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近3年以内にドイツにおいて研究に従事又は研修を受けたことのない者(私費を除く。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 約3ヶ月間 ・滞在費及び研修経費支給 ・往復航空賃支給 	文部省学術国際局国際教育文化課 (12月)

トルコ	トルコ政府奨学金留学生	7名	トルコ語、トルコ文学、歴史、地理、美術、農学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・40歳以下の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 8ヶ月間 ・奨学金 月額 55,000リラ 	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日トルコ大使館 (2月)
ノルウェー	ノルウェー政府奨学金留学生	1名	ノルウェー語、ノルウェー文学、歴史、法律、民俗学、博物学(植物学、動物学、地学)、地理学、経済学	<ul style="list-style-type: none"> ・20歳以上35歳以下の者 ・大学3年次以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 9ヶ月間 ・滞在費 月額 3,900ノルウェークローネ ・授業料免除 ・着後手当、書籍手当支給 	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日ノルウェー大使館 (2月)
パキスタン	パキスタン政府奨学金留学生	10名	人文科学、社会科学、自然科学及び芸術(美術、デザイン)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1学年間 ・生活費、書籍代、研究旅費支給 ・授業料免除 ・往復旅費支給 	(財)日本国際教育協会留学相談センター (6月)
ハンガリー	ハンガリー政府奨学金留学生	4名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 18ヶ月間 ・奨学金 月額 4,000フォリント ・宿舍提供 ・医療費無料 ・国内研究旅費支給 	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日ハンガリー大使館 (7月)
フィンランド	フィンランド政府奨学金留学生	2名	人文科学、社会科学、自然、芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者(含む見込者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 4～9ヶ月間 ・奨学金 月額 1,300～1,700マルカ ・授業料免除 	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日フィンランド大使館 (1月)
	フィンランド語、フィンランド文化研究のための特別奨学金		フィンランド語、フィンランドの歴史、考古学、民族学、文学、政治等フィンランドの文化に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> 同上 大学院レベルの学生が優先 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 3～9ヶ月間 ・奨学金 月額 1,700マルカ 	
フランス	フランス政府給費留学生		文学、人文・社会科学、自然科学、医学、農学、工学、海洋学、建築と都市工学、芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者(含む見込者)芸術専攻者は学歴問わない。 ・第一部門(文学、語学)30歳未満、ただし、現在フランス語の教職にあるか将来その予定であり、外国語としてのフランス語教育法を学ぼうとする者は、40歳未満 ・第二部門(人文・社会科学)及び第三部門(自然科学、医学、農学、工学、海洋学、建築と都市工学)の者は40歳未満 ・音楽(演奏)関係者受験者は、フランス大使館文化部に年令制限規定を問合わせること。その他の芸術部門の者は、33歳未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 9ヶ月間 ・給費 月額 2,210～3,200フラン ・帰国旅費支給 ・授業料支給 	駐日フランス大使館 (6月)

ベルギー	ベルギー政府奨学金留学生	4名程度	哲学、歴史学、文献学、社会学、心理学、教育学、法学、政治学、経済学、数学、物理学、化学、地質学、地理学、生物学、動物学、植物学、医学、獣医学、薬学、工学、農学、芸術	・大学卒業者 ・35歳未満の者	・期間 1学年間 ・奨学金月額 14,000～18,000ベルギーフラン ・帰国旅費支給 ・授業料等支給 ・図書教材費支給 ・国内研究用鉄道無料切符交付 ・傷害疾病保険付保	(財)日本国際教育協会留学相談センター 駐日ベルギー大使館 (5月)
ポーランド	ポーランド政府奨学金留学生	4名	人文・自然科学	・大学卒業者(含む見込者) ・35歳未満の者	・期間 2年間 ・奨学金月額 11,300ズロチ ・書籍代支給	(財)日本国際教育協会留学相談センター (12月)
	ポーランド/コペルニクス・フェローシップ	10名	天文学、物理学、数学、哲学、社会学、経済学、科学史	・大学卒業者	・期間12ヶ月間以内 ・奨学金月額 9,300～11,625ズロチ ・宿舍費、食費支給 ・授業料、医療費免除	(財)日本国際教育協会留学相談センター (1月)
	ポーランド/スラブ研究フェローシップ	5名	ポーランドの哲学やポーランド文化の広い範囲の分野におけるスラブ研究			
メキシコ	メキシコ政府交換留学生	若干名	財政、経済、文学、歴史医学、農学等	・大学院博士課程在学者又は修了者、あるいは大学卒業後大学等で教育・研究に従事している者 ・40歳未満の者 ・単身でメキシコに渡航、滞在できる者	・期間 10ヶ月間 ・滞在費月額 45,000メキシコ・ペソ ・入学料、授業料免除 ・医療保険、傷害保険付保される ・往復渡航費支給	(財)日本国際教育協会留学相談センター (4月)
ユーゴスラビア	ユーゴスラビア政府奨学金留学生		人文科学、社会科学、文化(ユーゴスラビアの大学で受入れ可能な分野)	・大学卒業者(含む見込者) ・40歳未満の者	・期間3～9ヶ月間 ・奨学金月額 17,000ディナール	(財)日本国際教育協会留学相談センター(11月)
連合王国	国立大学等英語教育担当教員の連合王国派遣	約8名	英語教育	・国立大学等において英語教育を担当する専任教員 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近5年以内に連合王国又はアメリカ合衆国において研究に従事又は研修を受けたことのない者	・期間 約2ヶ月間 ・滞在費支給 ・往復航空賃支給	文部省学術国際局国際教育文化課 (1月)

昭和61年度富山大学入学者選抜について

一実施状況一

昭和61年度富山大学第2次入学試験は、去る3月4日(火)5日(水)両日にわたり実施された。

志願者は4,079名で、県内高等学校出身者1,886名(男子1,139名、女子747名)で全体の46%、現役は3,160名(男子2,198名、女子962名)で全体の77%でした。また、合格者の発表は、3月13日(水)午前9時本学で行われ、合格者1,376名の内訳をみると県内高等

学校出身者776名(男子413名、女子363名)で全体の56%であり昨年を若干下回りました。

なお、理学部物理学科において第2次募集(入学定員12名を留保)が実施され、合格者の発表は、3月29日(土)午前9時本学で行われました。

- 選 抜 状 況 -

学部	学 科 (課 程)	募集 人員	志願者数	受験者数	欠席者 (1部 欠を含む)	合格者数	
人 文	人 文 学 科	95	354	331	23	96	
	語 学 文 学 科	95	244	231	13	95	
	計	190	598	562	36	191	
教 育	小学校教員養成課程	140	159	159	0	139	
	中学校教員養成課程	50	122	119	3	50	
	養護学校教員養成課程	20	49	48	1	21	
	幼稚園教員養成課程	30	93	90	3	30	
	計	240	423	416	7	240	
経 済	昼間主 コース	経 済 学 科	144	352 (17)	330 (17)	22 (0)	144(9)
		経 営 学 科	124	433 (16)	415 (16)	18 (0)	124(9)
		経 営 法 学 科	102	771 (0)	723 (0)	48 (0)	102(0)
		計	370	1,556 (33)	1,468 (33)	88 (0)	370(18)
	夜間主 コース	経 済 学 科	20	44 (22)	43 (21)	1 (1)	20(13)
		経 営 学 科	20	45 (25)	44 (24)	1 (1)	20(18)
		経 営 法 学 科	20	42 (16)	41 (15)	1 (1)	20(9)
		計	60	131 (63)	128 (60)	3 (3)	60(40)
理	数 学 学 科	43	64	62	2	43	
	物 理 学 科	47	155 (109)	152 (109)	3	47(12)	
	化 学 学 科	43	69	69	0	44	
	生 物 学 科	35	66	66	0	35	
	地 球 科 学 科	32	84	84	0	32	
	計	200	438	433	5	201	
工	電 気 工 学 科	53	154	154	0	53	
	工 業 化 学 科	48	146	138	8	48	
	金 属 工 学 科	43	197	194	3	43	
	機 械 工 学 科	53	164	158	6	53	
	生 産 機 械 工 学 科	43	202	200	2	43	
	化 学 工 学 科	43	109	105	4	43	
	電 子 工 学 科	43	70	67	3	43	
	計	326	1,042	1,016	26	326	
合 計		1,386	4,188	4,023	165	1,388	

注 1 経済学部「昼間主コース」の()内は推薦入学志願者・受験者・欠席者・合格者の内数を示す。

2 経済学部「夜間主コース」の()内は推薦入学及び社会人等の特別選抜志願者・受験者・欠席者・合格者の内数を示す。

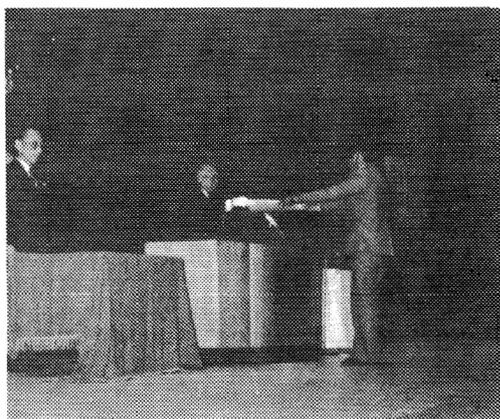
3 理学部物理学科の()内は第2次募集入学志願者・受験者・合格者の内数を示す。

昭和60年度富山大学卒業証書，修了証書 並びに修士学位記授与式の挙

昭和60年度富山大学卒業証書，修了証書並びに修士学位記授与式は，3月25日（火）午前10時から富山市公会堂において挙

です。

行され，証書授与に先立ち，本学フィルハーモニー管弦楽団による演奏が行われました。当日は快晴のもと，式終了後の公会堂前では各クラブの後輩たちによる胴上げ，記念撮影などが見られ，引き続き各学部ごとの卒業記念祝賀会が各会場で執り行われました。



また，午前11時すぎから公会堂別館 301会議室において名誉教授との懇談会が開催され，大井学長から最近における本学の状況等について説明があった後，それぞれ出席の名誉教授から個々の近況などについて懇談がなされ，和やかな雰囲気うちに終了しました。

なお，大学院の学位記を授与された者は次のとおり

昭和60年度 富山大学大学院理学研究科（修士課程）修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題目
数 学 (2名)	昭和59年度	多 鍋 浩 二	On Pfister forms
	"	番 匠 栄 一	超球の正則自己写像とそのiteratesについて
物理学 (7名)	"	上 野 恵 司	SmNi 及び SmCu ₂ 化合物の電氣的・磁氣的性質
	"	賀 川 善 裕	高分解能電子顕微鏡による微小欠陥の研究
	"	栗 山 祐 忠	星間分子の実験室での分光— ¹³ CH ₃ OH のマイクロ波分光—
	"	杉 政 史 浩	開空間上での位相不変量
	"	高 島 浩 司	強い外場の中のフェルミオン
	"	平 田 修	レーザー分光による分子の振動励起状態の研究
	"	宮 崎 政 志	チタン酸バリウムにおける表面層のX線二結晶法による研究
化 学 (6名)	"	浦 城 延 通	水中における有機イオンのイオン会合について
	"	江 尻 恵美子	単環性モノアザ [n] アヌレン類の合成と性質
	"	田 島 幸 代	赤外線吸収スペクトルにおける溶媒および温度効果—四塩化炭素の対称伸縮振動とメチルアミンの縦ゆれ振動—
	"	永 田 清 則	[Co ₂ tmd ₂] (a = 単座配位子, tmd = テトラメチレンジアミン) 型錯体の合成と構造

	昭和59年度	羽 柴 秀 人	多成分系ビスマサーモリブデン酸化物触媒の構造と作用機構
	"	花 染 功	アニリン誘導体の ^{15}N -nmr スペクトル
生物学 (3名)	"	春 見 達 郎	ウシガエルにおけるCaの吸収-吸収部位とカルシトニン
	"	藤 嶽 真 之	ウニ未受精卵の酸性海水抽出物の分離ならびにその作用について
	"	宮 岸 昌 子	ウニ幼生の骨片形成に及ぼす界面活性剤の影響
地球科学 (2名)	"	斎 藤 好 弘	氷筈の研究
	"	森 田 弘 之	中新世岩層の地質学・岩石学的研究

昭和60年度 富山大学大学院工学研究科(修士課程)修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題名
電気工学専攻 (6名)	昭和59年度	大 坪 茂	交流バイアス法による磁気記録再生の計算機シミュレーション
	"	作 田 利 昭	呼吸制御による α 波発生機構の解析
	"	三 箇 喜与治	多重くま取り効果を利用した相数変換器に関する研究
	"	濱 崎 仁	閉磁路型単相交流リニアアクチュエータに関する研究
	"	堀 田 剛	副腎皮質系ホルモンの計算機シミュレーション
	"	松 村 耕 志	コオロギと数種の直翅目昆虫における発音機構の比較
工業化学専攻 (11名)	"	赤 木 雄	金属-アルキルハライド系による石炭の可溶化石炭モデル物質による反応機構の研究
	"	伊佐地 啓 史	水素電極反応の機作の実験的確定法ならびにセルの試作に関する研究
	"	今 井 徹	活性炭による環境中メタノール除去に関する研究
	"	岩 城 浩 之	ジメチルアズレン [1,2-b] アズレン-2,4-ジカルボキシレートとの合成と物性及びアズレン生成時の転移反応に関する研究
	"	荻 田 善三郎	置換アゾキシベンゼン類の合成法について
	"	荻 野 忠 義	石炭モデル化合物の還元メチル化反応-芳香族エーテルと複素環化合物との反応-
	"	金 山 良 成	Thermal polycondensation in solid state of N-hydroxyalkyl-2-imidazolidinone
	"	中 嶋 利 一	ナフタレンによる液々抽出-固液分離法による金属微量分析
	"	中 山 和 也	1-アントラキノンスルフェン酸の化学反応性に関する研究
金属工	"	福 山 裕理子	シクロヘプタ [a] フェナレン-6,12-ジオン (キノン) 及び5-ブロム誘導体の合成と物性に関する研究
	"	吉 澤 正 樹	Studies on the Ei-Reaction Mechanism of the Sulfoxides
	"	嘉 藤 雅 記	鉛バッテリースライムの湿式処理プロセスに関する研究
	"	杉 本 育 弘	発生ガス分析, 定電位電解法によるMno, MnFe_2O_4 の炭素熱還元に関する研究

学専攻 (10名)	昭和59年度	出 本 敏 貴	非金属分散型アルミニウム複合材料に関する研究
	"	土 岐 浩 之	水蒸気雰囲気における鉄-クロム, ニッケル合金の選択酸化
	"	林 和 夫	発生ガス分析法によるNiFe ₂ O ₄ のCH ₄ 還元に関する研究
	"	福 持 泰 明	Siを過剰に含むAl-Mg ₂ Si合金の粒界破断に及ぼす結晶粒径の影響
	"	古 野 良 一	硫化コバルト鉱の湿式処理に関する研究
	"	山 中 秀 行	高温高速高荷重下における軸受鋼の焼戻硬度の軟化現象
	"	山 本 公 俊	Al ³⁺ イオンの溶媒抽出に関する研究
	"	葉 英 華	極低炭素冷延鋼板の再結晶集合組織におよぼす微量元素の影響
機械工 学専攻 (2名)	"	紺 谷 隆	非定常熱線法による高熱伝導材料の熱伝導率測定に関する研究
	"	佐々木 義 雄	熱線風速計と壁面との干渉について (箇 材料による影響)
生産機 械工学 専 攻 (4名)	"	狭 川 直 之	アルミニウム合金の熱間押出メタルフローからみた型設計に関する研究
	"	永 田 可 彦	オプトエレクトロニクスにおける微小量計測システムの研究
	"	宮 前 宗 裕	超塑性7475合金の拡散接合性に関する基礎的研究
	"	山 林 稔 治	熱間押出用ダイスの形状と負荷応力分布に関する研究
化学工 学専攻 (4名)	"	荻 下 雅 敏	偏心二重管環状部流れにおける輸送現象
	"	笹 井 文 博	静電場における粘土層内の液状水移動に関する研究
	"	中 田 修 一	塩ビ重合の暴走阻止-最適操作の知識工学的探索
	"	苗 田 則 義	三相流動層型生物膜廃水処理装置によるBOD処理操作の検討
電子工 学専攻 (5名)	"	石 丸 信 雄	電子エネルギー損失分光法によるSi上のGeの初期成長の研究
	"	藤 本 易 史	図書目録カードの書誌情報の認識と分類
	"	古 瀬 正 浩	多くの負荷素子を持つ小形指向性アンテナに関する研究
	"	南 公 二	強誘電性液晶セルにおける分子配列の電界誘起変形の研究
	"	宮 田 努	スパッタ法による垂直磁気記録用磁性薄膜の研究

財団等による研究助成関係の募集のお知らせ

昭和60年度に各種財団等から本学に通知のありました研究助成等の募集は次のとおりです。

なお、これらの募集通知は毎年一定しているのではなく、その年によって若干の変更あるいは募集しないもの、またこの他にも関係部局へ直接送付されるもの

のがありますので、この点についてお含みおきの上参考にしてください。

募集要項等の詳細は、各部局の庶務(総務)係へ問い合わせ願います。

名 称	対 象 分 野	対 象 者	助 成 金 額	募集件数	通知時期
研究活動助成 (庭野平和財団)	I 宗教協力に関する研究 II 現代における宗教の役割に関する研究 III 平和を阻害する諸要因に対する宗教的アプローチに関する研究 IV 科学と宗教・倫理に関する研究 V 地域レベルでの宗教協力活動 VI 生命操作と宗教・倫理に関する研究	制限なし	○総額 2,500万円 * I～V 1件につき 100万円 * VI 1件につき 100万円		4月
伊勢丹奨学会商業経済研究助成	国民生活の向上と商業の発展に寄与する研究	大学又はこれに準ずる機関に在籍し、研究に従事している教授、助教授及び研究生もしくはそのグループ	○総額 200万円	1～2件	4月
研究助成金 (田村科学技術振興財団)	科学技術に関する研究・開発の助成及び振興を図り、富山県の産業の発展と福祉の増進に寄与するもの	対象となる研究を行う研究機関又は研究者	○総額 840万円 A. 研究助成 1件につき 50～200万円 B. 外国人研究者の招へい、受入れ及び学術交流集会の援助 20～50万円	A. 8～5件 B. 1～2件	4月
研究活動及び設備等助成金 (富山相銀奨学育英財団)	制限なし	富山県内に所在する大学、短期大学及び高等学校	○大学に対して 総額 100万円		4月
伊藤科学研究助成金 (伊藤科学振興会)	化学、地学、生物学	大学の助教授、講師、助手及び大学院博士課程在学中の学生並びにこれに準ずる者又はこれらにより構成される団体もしくは研究機関	○1件につき 100万円以内	12件	4月
助成・援助 (電気通信普及財団)	○電気通信に関する法律、経済、社会文化的研究調査 ○電気通信技術に関する普及、振興 ○電気通信を利用した福祉、文化事業 ○電気通信に関する学術交流及び国際協力	制限なし	制限なし		5月
社会科学国際フェローシップ (国際文化会館)	①社会科学一般 ②発展途上国研究 ③アメリカ研究	①大学・研究機関等に在籍する研究者 ・男性の場合は35歳未満 ・外国の大学院を修了した者及び最近3年間に継続して1年以上外国に滞在した者は資格がない。 ・外国の大学での学位取得を目的としないこと。 ②制限なし ①と同じ	○外国の大学・研究機関等に2年間在籍し、必要な経費を全額支給	数名	6月
赤井録音録画技術研究助成	直接録音録画技術に関するもので、独創的で将来性があり、実用化が期待されるもの	日本国内の大学研究室及び公益研究機関に勤務する者	○総額 1,000万円 ○1件につき 200万円以内	5～10件	6月

調査研究助成 (日本住宅総合センター)	国内、国外の住宅問題、都市問題、土地問題、省エネルギー問題を含む次の部門 1. 社会、経済、経営に関する部門 2. 法律及び制度、政策に関する部門 3. 住宅、都市の計画に関する部門 4. 住宅の建設及び技術開発に関する部門	○大学及び大学付属研究機関の個人又はグループ研究者 ○その他の研究機関における個人又はグループ研究者	○総額 3,000万円 ○1件につき 200万円以内		6月
朝日賞 (朝日新聞社)	学術、芸術、科学技術、社会福祉、体育その他あらゆる分野	各分野で傑出した業績をあげ、我が国の文化、社会の発展と向上に多大の貢献をした個人又は団体	○1件につき 100万円 (副賞)		6月
カシオ科学振興財団	自然科学 ・電気工学 ・機械工学 人文科学	大学研究機関が推薦する研究グループまたは個人研究者	自然科学 A 300万円 2件 B 200万円 5件 C 100万円 16件 計 3,200万円 人文科学 D 100万円 4件 計 400万円		6月
APIC論文・研究プロジェクト (国際協力推進協会)	1. 開発途上国への国際協力に関する理論的・実証的研究 2. 開発途上国への国際協力政策に関する研究 3. 国際協力に伴う政治・経済・社会・文化への影響に関する研究 4. 国際協力についての日本の国民的理解に関する研究	制限なし	A. 論文 1件につき 20~100万円 B. 研究プロジェクト 1件につき 50万円	A. 6件以内 B. 2件程度	8月
海外渡航旅費援助 (電気通信普及財団)	電気通信、情報通信に関する研究者の学術交流	①海外における電気通信、情報通信に関する学会に出席し、原則として研究発表(申込者が中心となって行った研究の発表に限る。)を行う研究者であって所属する機関の長の推薦を受けた者。 ②海外における電気通信、情報通信に関する国際機関での討議に参加する者で所属する機関の長の推薦を受けた者。 なお、招請者または所属する機関から旅費の全額を支給される者は除く。	ヨーロッパ 50万円 北米(東海岸) 40万円 北米(西海岸) 30万円 ハワイ 20万円 中米 35万円 南米 45~60万円 オーストラリア 50万円 東南アジア 25万円 中国 15万円 韓国 10万円 その他 個別に決定 注①援助金額は、学会の開催地までの往復航空運賃と滞在費の一部 ②南米については、表の金額の範囲内で個別に決定 ③同一の申込者について1年度に1回を限度		8月
二十一世紀文化学術財団学術奨励金	1. 自由企業体制の将来展望 2. 政府の経済的機能と民間経済活動への関わり 3. 科学技術の発展と社会 4. 日本の社会的文化的特性と国際社会	経済、社会、文化の諸分野の学術研究に従事している者	○総額 3,500万円 ○1件につき 100~500万円		10月
工藤学術財団 A. 研究費補助 B. 褒賞 C. 研究成果発表補助	自然科学分野	○理学部、工学部、医学部、農学部及びその他自然科学部門及び付属研究所等に籍を置く個人研究者及び団体 ○Aについては45歳未満の者	A. 総額 500万円 B. " 50万円 C. " 50万円	A. 8~10件 B. 1件 C. 1件	10月

辞 職	61. 3. 31	石 田 安 弘	教授(人文学部)	辞職を承認する	文 部 大 臣
	"	中 井 毅	教頭(教育学部附属小学校)	辞職を承認する	"
	"	西 野 秀 夫	教頭(教育学部附属中学校)	辞職を承認する	"
	"	常 楽 道 子	教諭(教育学部附属小学校)	辞職を承認する	富山大学長
	"	杉 村 修	教諭(教育学部附属中学校)	辞職を承認する	"
	"	小 山 裕 子	教諭(教育学部附属中学校)	辞職を承認する	"
	"	西 藤 光 美	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	"
	"	加賀谷 賢 二	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	"
	"	山 崎 静 江	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	"
	"	林 静 生	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	"
	"	野 畑 美 恵	教諭(教育学部附属幼稚園)	辞職を承認する	"
	"	奥 田 雅 子	経済学部庶務係庶務主任	辞職を承認する	"
	退 職	61. 3. 24	西 谷 弘 美	教諭(教育学部附属養護学校)	昭和61年3月23日限り任期満了により退職した
61. 3. 31		山 出 繁	文部事務官(附属図書館閲覧係長)	国家公務員法第81条の2第1項の規定により昭和61年3月31日限り定年退職	"
"		舘 盛 貞 信	文部事務官(厚生課保健係保健主任)	国家公務員法第81条の2第1項の規定により昭和61年3月31日限り定年退職	"
"		大 坪 清 彦	文部事務官(主計課警務員長)	国家公務員法第81条の2第1項の規定により昭和61年3月31日限り定年退職	"
"		中 村 良 子	文部技官(厚生課看護婦)	国家公務員法第81条の2第1項の規定により昭和61年3月31日限り定年退職	"
採 用	61. 4. 1	寺 崎 章 二		教授(教育学部)	文 部 大 臣
	"	松 本 清		講師(教育学部)	富山大学長
	"	柳 川 洋 一		助手(経済学部)	"
	"	長 久 良 一		助手(経済学部)	"
	"	大 川 信 行		講師(教養部)	"
	"	利 波 宗 雄		教頭(教育学部附属小学校)	文 部 大 臣
	"	塚 田 みゆき		教諭(教育学部附属小学校)	富山大学長
	"	小 川 美 子		教諭(教育学部附属中学校)	"
	"	丹 保 裕		教諭(教育学部附属中学校)	"
	"	高 井 真 琴		教諭(教育学部附属中学校)	"
	"	早 川 隆 志		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	高 畑 庄 蔵		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	酒 井 真由美		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	辰 尾 仁 美		教諭(教育学部附属幼稚園)	"
	"	草 島 伸 雄		文部事務官(庶務部庶務課)	"
	"	加 藤 尚 弘		文部事務官(教育学部)	"
	"	林 秀 一		文部事務官(経済学部)	"
	"	桐 昭 弘		文部技官(工学部)	"
"	松 田 義 弘		文部事務官(教養部)	"	

採用	61. 4. 1	石塚久博		文部事務官(教養部)	富山大学長
	"	小森功		文部事務官(附属図書館)	"
	"	村裕子		事務補佐員(附属図書館)	"
昇任	"	塚田泰彦	講師(教育学部)	助教授(上越教育大学学校教育学部)	文部大臣
	"	相澤吉晴	講師(経済学部)	助教授(経済学部)	"
	"	柳瀬秋夫	講師(工学部)	助教授(工学部)	"
	"	中越矩方	助教授(教養部)	教授(教養部)	"
	"	小林武彦	助教授(教養部)	教授(教養部)	"
	"	江上繁樹	講師(教養部)	助教授(教養部)	"
	"	高尾テルノ	講師(保健管理センター)	助教授(保健管理センター)	"
	"	稲垣実	教諭(教育学部附属中学校)	教頭(教育学部附属中学校)	"
	"	花岡勉	九州大学学生課長	学生部次長	"
	"	阿部利夫	経理部主計課長	岡山大学歯学部事務部長	"
	"	河上孝	経理部主計課総務係監査主任	高岡短期大学会計課出納係長	高岡短期大学長
	"	竹下義美	教育学部学務係学生主任	高岡短期大学学生課学生係長	"
	"	池田勇	文部事務官(附属図書館)	富山工業高等専門学校学生課図書係長	富山工業高等専門学校長
	"	齋藤純一	庶務部人事課任用係主任	富山商船高等専門学校庶務課人事係長	富山商船高等専門学校長
	"	牧野秀應	経理部主計課司計係予算主任	富山商船高等専門学校会計課出納係長	"
	"	松井博文	教養部庶務係庶務主任	国立立山少年自然の家庶務課庶務係長	国立立山少年自然の家所長
	"	新出信幸	文部事務官(教養部)	経理部経理課出納係出納主任	富山大学長
	"	太田則春	文部事務官(経理部経理課)	経理部経理課情報処理係情報処理主任	"
	"	清水良太郎	文部事務官(施設課)	施設課企画係企画主任	"
	"	山田知訓	文部事務官(人文学部・理学部)	人文学部・理学部学務係教務主任	"
"	柴田利治	文部事務官(教育学部)	教育学部学務係厚生主任	"	
"	羽広孝司	文部事務官(教育学部)	教育学部附属学校第一係会計主任	"	
"	北村均	文部事務官(経済学部)	経済学部庶務係庶務主任	"	
転任	61. 4. 1	栗原幹夫	教諭(筑波大学附属駒場高等学校)	助教授(教育学部)	文部大臣
	"	原田嘉昭	助手(和歌山工業高等専門学校)	講師(教育学部)	富山大学長
	"	五百崎喜明	国立立山少年自然の家庶務課庶務係長	庶務部人事課給与係長	"
	"	羽根俊	富山商船高等専門学校会計課総務係長	文部技官(経理部経理課管理係長)	"
	"	田中大四郎	富山工業高等専門学校学生課図書係長	附属図書館閲覧係長	"
	"	中村進	庶務部庶務課企画係長	高岡短期大学事業課企画係長	高岡短期大学長
	"	西尾久	富山商船高等専門学校学生課学舎学生主任	厚生課厚生寮務係厚生寮務主任	富山大学長
	"	宮島智恵美	富山医科薬科大学附属病院看護部看護婦	保健管理センター看護婦	"
	"	小林雄二	文部事務官(経営短期大学部)	文部事務官(教育学部)	"
	"	北川敬信	文部事務官(体育局スポーツ課登山研修所)	文部事務官(工学部)	"

転任	61. 4. 1	宮尾 幸一	文部事務官(経済学部)	文部事務官(高岡短期大学庶務課)	高岡短期大学 長
	"	小林 司	文部事務官(経済学部)	文部事務官(高岡短期大学学生課)	"
	"	藤井 栄吉	文部事務官(教育学部)	文部事務官(富山商船高等専門学校 学検計課)	富山商船高等 専 門 校 長
	"	坂井 みち子	文部技官(工学部)	文部事務官(滋賀医科大学医事課)	滋賀医科 大 学 長
配置換	"	富川 盛道	教授(東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所)	教授(人文学部)	文 部 大 臣
	"	福田 立明	教授(岐阜大学教養部)	教授(人文学部)	"
	"	永野 弘	教授(東京大学物性研究所)	教授(教育学部)	"
	"	高橋 一	助教授(経済学部)	助教授(一橋大学経済学部)	"
	"	西垣 登	北海道教育大学庶務部長	庶務部長	"
	"	小杉 宏	庶務部長	三重大学庶務部長	"
	"	下重 孝之	学生部次長	九州大学学生部次長	"
	"	中川 忠	福井大学厚生課長	庶務部人事課長	"
	"	増井 重信	庶務部人事課長	神戸大学庶務部人事課長	"
	"	小松 東男	鹿屋体育大会計課長	経理部主計課長	"
	"	森井 正	庶務部人事課給与係長	経理部経理課情報処理係長	富山大学長
	"	横山 正弘	学生課学生会館係長	学生課総務係長	"
	"	角井 与志雄	厚生課寮務係長	厚生課厚生寮務係長	"
	"	御福 隆	厚生課厚生係長	厚生課奨学係長	"
	"	加賀見 実	工学部会計係長	工学部経理係長	"
	"	林 征紀	工学部管理係長	工学部用度係長	"
	"	松永 良成	工学部会計係経理主任	経理部主計課総務係監査主任	"
	"	友坂 義一	経理部経理課出納係出納主任	経理部主計課司計係予算主任	"
	"	高邑 欣市	学生課学生係学生主任	学生課総務係総務主任	"
	"	佐野 勤	経済学部学務係学生主任	学生課学生係学生主任	"
	"	堀 和實	人文学部・理学部学務係教務主任	学生課入学試験係入学試験主任	"
	"	桜井 雅和	附属図書館総務係総務主任	厚生課奨学係奨学主任	"
	"	向 雅己	厚生課寮務係寮務主任	人文学部・理学部庶務係人事主任	"
	"	佐久間 克明	教育学部会計係会計主任	人文学部・理学部経理係経理主任	"
	"	高邑 英市	経理部主計課管財係管財主任	教育学部会計係会計主任	"
	"	柳田 邦雄	学生課入学試験係入学試験主任	教育学部学務係学生主任	"
	"	湯浅 健一	工学部学務係学生主任	経済学部学務係学生主任	"
	"	鹿島 光雄	工学部管理係管理主任	工学部経理係経理主任	"
	"	安西 修三	厚生課厚生係厚生主任	工学部学務係学生主任	"
	"	堀口 勲	人文学部・理学部庶務係人事主任	教養部庶務係庶務主任	"
"	能手 哲治	人文学部・理学部経理係経理主任	教養部会計係会計主任	"	
"	福田 豊	文部事務官(庶務部人事課)	文部事務官(庶務部庶務課)	"	

配 置 換	61. 4. 1	中 村 義 浩	文部事務官(庶務部庶務課)	文部事務官(庶務部人事課)	富山大学長
	"	大聖寺 一 孝	文部事務官(工学部)	文部事務官(経理部主計課)	"
	"	岩 永 晴 雄	文部事務官(教養部)	文部事務官(経理部経理課)	"
	"	土 田 敏 雄	文部技官(附属図書館)	文部技官(経理部経理課)	"
	"	長 崎 宏 美	文部事務官(教養部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	上 木 祐 一	文部事務官(教養部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	坂 東 康 子	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(教育学部)	"
	"	宮 原 進	文部事務官(庶務部庶務課)	文部事務官(経済学部)	"
	"	多 村 節 子	文部事務官(教育学部)	文部事務官(経済学部)	"
	"	田 中 茂	文部事務官(経理部経理課)	文部事務官(工学部)	"
	"	森 田 美喜子	文部事務官(教育学部)	文部事務官(工学部)	"
	"	高 尾 貢	文部事務官(工学部)	文部事務官(教養部)	"
	"	林 茂 美	文部事務官(工学部)	文部事務官(教養部)	"
	"	田 村 修 一	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(附属図書館)	"
	"	大 野 三 代	文部技官(厚生課看護婦)	文部技官(保健管理センター看護婦)	"
	"	山 本 郁 子	文部技官(保健管理センター栄養士)	文部技官(厚生課栄養士)	"
	"	松 嶋 道 夫	教授(経営短期大学部)	教授(経済学部)	文 部 大 臣
	"	南 龍 久	教授(経営短期大学部)	教授(経済学部)	"
	"	篠 原 巖	助教授(経営短期大学部)	助教授(経済学部)	"
	"	榑 原 英 夫	助教授(経営短期大学部)	助教授(経済学部)	"
	"	芳 賀 健 一	助教授(経営短期大学部)	助教授(経済学部)	"
	"	佐 藤 良 一	助教授(経営短期大学部)	助教授(経済学部)	"
	"	小 倉 利 丸	助教授(経営短期大学部)	助教授(経済学部)	"
	"	下 崎 千代子	助教授(経営短期大学部)	助教授(経済学部)	"
職 務 命 令	"	福 田 豊	文部事務官(庶務部庶務課)	庶務部庶務課学事調査係法規主任を命ずる	富山大学長
	"	大聖寺 一 孝	文部事務官(経理部主計課)	経理部主計課管財係管財主任を命ずる	"
	"	清 水 良太郎	文部事務官(施設課)	施設課企画係企画主任を免ずる	"
	"	山 田 知 訓	文部事務官(人文学部・理学部)	人文学部・理学部学務係学務主任を免ずる	"
	"	柴 田 利 治	文部事務官(教育学部)	教育学部学務係厚生主任を免ずる	"
	"	羽 広 孝 司	文部事務官(教育学部)	教育学部附属学校第一係会計主任を免ずる	"
	"	宮 原 進	文部事務官(経済学部)	経済学部庶務係人事主任を命ずる	"
	"	田 中 茂	文部事務官(工学部)	工学部用度係用度主任を命ずる	"
	"	池 田 勇	文部事務官(附属図書館)	附属図書館参考係参考主任を免ずる	"
	"	開 發 勝	文部事務官(経理部主計課警務員)	経理部主計課警務員長を命ずる	"
	"	金 田 稔	文部技官(経理部経理課自動車運転手)	経理部経理課副車庫長を命ずる	"
	"	片 山 進	文部技官(厚生課調理士)	厚生課調理士長を命ずる	"

職務命令	61. 4. 1	片山良一	文部技官(教育学部植物育成員)	教育学部植物育成員長を命ずる	富山大学長
公の名称	"	利波宗雄	教頭(教育学部附属小学校)	教育学部附属小学校副校長を命ずる	文部大臣
の附加	"	稲垣実	教頭(教育学部附属中学校)	教育学部附属中学校副校長を命ずる	"
併任	"	林良重	教授(教育学部)	附属小学校長 (61. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	吉岡周明	教授(教育学部)	附属中学校長 (61. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	中川孝	教授(教育学部)	附属養護学校長 (61. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	中谷唯一	教授(教育学部)	附属幼稚園長 (61. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	藤井敏孝	教授(教育学部)	附属教育実践研究指導センター長 61. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	杉本新平	教授(教養部)	教養部長・評議員 (61. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	本田弘	教授(人文学部)	保健管理センター所長の併任を 解除する	"
	"	河野信弘	教授(教育学部)	保健管理センター所長 (61. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	土田敏雄	文部技官(経理部経理課)	附属図書館	富山大学長
	"	大野三代	文部技官(厚生課看護婦)	保健管理センター看護婦の併任を 解除する	"
	"	山本郁子	文部技官(厚生課栄養士)	保健管理センター栄養士	"
	"	松嶋道夫	教授(経済学部)	教授(経営短期大学部) (61. 4. 1~62. 3. 31)	文部大臣
	"	南龍久	教授(経済学部)	教授(経営短期大学部) (61. 4. 1~62. 3. 31)	"
	"	篠原巖	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部) (61. 4. 1~62. 3. 31)	"
	"	榊原英夫	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部) (61. 4. 1~62. 3. 31)	"
	"	芳賀健一	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部) (61. 4. 1~62. 3. 31)	"
	"	佐藤良一	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部) (61. 4. 1~62. 3. 31)	"
	"	小倉利丸	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部) (61. 4. 1~62. 3. 31)	"
"	下崎千代子	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部) (61. 4. 1~62. 3. 31)	"	
退職	"	和崎洋一	教授(人文学部)	昭和61年3月31日限り停年により 退職した	"
	"	大沢欽治	教授(教育学部)	昭和61年3月31日限り停年により 退職した	"
	"	藤木興三	教授(教育学部)	昭和61年3月31日限り停年により 退職した	"
	"	加藤壽美子	教授(教育学部)	昭和61年3月31日限り停年により 退職した	"
	"	屋敷平州	教授(教育学部)	昭和61年3月31日限り停年により 退職した	"
	"	池田正夫	教授(工学部)	昭和61年3月31日限り停年により 退職した	"
	"	風巻恒司	教授(工学部)	昭和61年3月31日限り停年により 退職した	"
	"	岩田哲也	教務補佐員(教養部)	昭和61年3月31日限り退職した	富山大学長
	"	三村紀子	事務補佐員(附属図書館)	昭和61年3月31日限り退職した	"

学 内 諸 報

永年勤続者表彰

人文学部教授石田安弘氏は、昭和61年 3 月31日付けで辞職されましたが、同氏に対し永年勤続者（20年）として表彰状及び記念品が授与されました。

教育学部附属教育実践研究指導センター長の改選

屋敷平州教育学部附属教育実践研究指導センター長の任期が、昭和61年 3 月31日に満了することに伴い、教育学部教授会は、3 月11日に次期センター長候補者の選挙を行った。その結果、藤井敏孝教授が選出されました。任期は、昭和61年 4 月 1 日から2年間。

藤井教授は、昭和23年 9 月京都帝国大学文学部哲学

科卒業、福井県立第一高等学校教諭を経て、昭和24年 10月福井大学学芸学部助手、同37年10月富山大学教育学部助教授、同53年 4 月同教授となり、この間、昭和55年 4 月から2期（4年間）にわたり、附属養護学校長を勤められ、今日に至っている。

退職予定者を囲む懇談会

昭和60年度に定年又は勸奨により退職される方々を囲む懇談会が、去る 3 月14日（金）11時から事務局大会議室において開催されました。

懇談会に先立ち、記念品の贈呈、学長挨拶、退職予定者代表の謝辞、記念撮影が行われたあと懇談会に入りました。

懇談会は、終始和やかな雰囲気のうちに行われ、学長はじめ各部局長等から、永年の労がねぎらわれました。

なお、退職予定者は次のとおりです。

経 理 部 文部事務官 大 坪 清 彦

学 生 部	文部事務官	館 盛 貞 信
”	文 部 技 官	中 村 良 子
人 文 学 部	文 部 教 官	和 崎 洋 一
教 育 学 部	”	大 澤 欽 治
”	”	加 藤 壽 美 子
”	”	藤 木 興 三
”	”	屋 敷 平 州
経 済 学 部	文部事務官	奥 田 雅 子
工 学 部	文 部 教 官	池 田 正 夫
”	”	風 卷 恒 司
附 属 図 書 館	文部事務官	山 出 繁



海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	助教授	佐藤 進	中華人民共和国	日本語教育・日本研究に関する調査及び指導のため	61. 3. 24 } 61. 7. 20
	経済学部	教授	武 暢夫	連合王国	近世初期におけるイギリス農業発展の比較的研究のため	61. 3. 18 } 61. 5. 17
	理学部	"	小黒 千足	タイ	海産両生類のカルシウム代謝に関する研究のため	61. 3. 17 } 61. 3. 29
海外研修旅行	人文学部	助教授	夫馬 進	中華人民共和国	明清都市社会の研究のため	61. 3. 20 } 61. 4. 20
	教育学部	助手	丸山 茂徳	アメリカ合衆国 カナダ	フランシスカン層群とバンクーバー島の地質の研究のため	61. 3. 21 } 61. 4. 1
	経済学部	助教授	正亀 芳造	ドイツ民主共和国 ドイツ連邦共和国	労働経済及び労務管理の比較研究のため	61. 3. 21 } 61. 10. 8
	教養部	教授	瀧澤 弘	ハンガリー ドイツ連邦共和国	ルカーチ関係文献資料調査並びにドイツ文化史・ドイツ文学関係博物館見学のため	61. 3. 2 } 61. 3. 26

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

廃液処理施設及び第3体育館の完成

廃液処理施設は、旧廃水処理室を取り壊して、トリチウム科学センター前に、又第3体育館は硬式テニスコート横に昨年9月に着工され、3月に竣工しました。

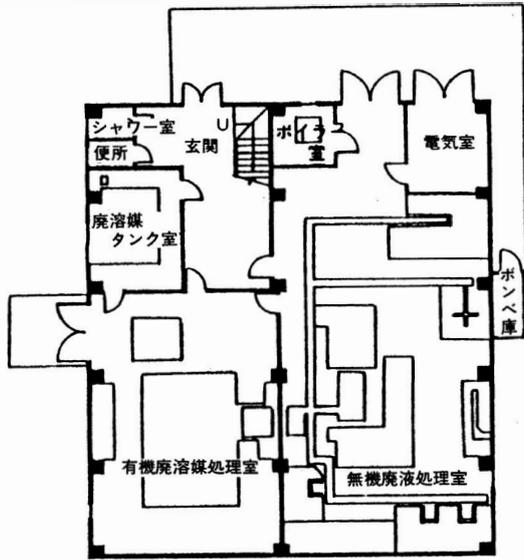
建物面積

廃液処理施設	459m ²	2階建
第3体育館	2,432m ²	2階建

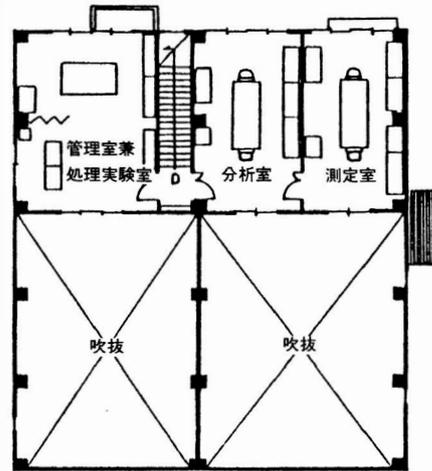
五福団地配置図



廃液処理施設

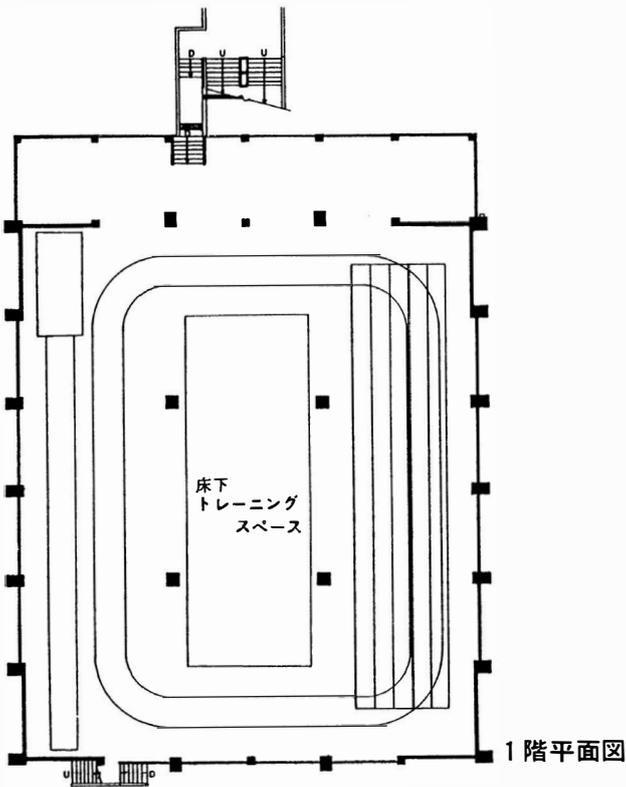


1階平面図

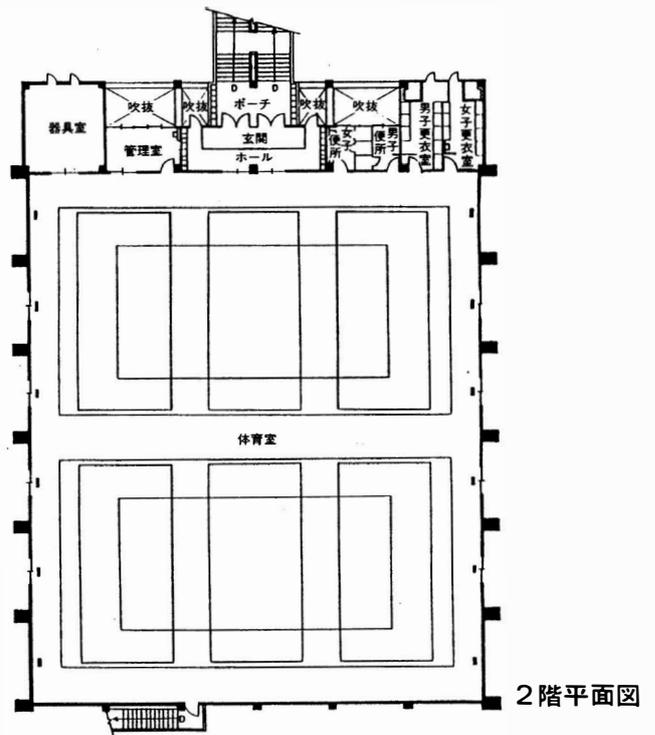


2階平面図

第3体育館



1階平面図



2階平面図

学内レクリエーション

〈囲碁大会〉

本学レクリエーション委員会倶楽部会碁班主催による昭和60年度学内碁大会が去る3月1日(土)富山大学職員会館において、15名の参加により実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

○Aクラス

優 勝	施設課	高 久晴
準優勝	工学部	竹越栄俊
三 位	〃	品川不二雄

○Bクラス

優 勝	附属図書館	高木行則
準優勝	工学部	高山藤一郎
三 位	〃	吉沢寿夫

○Cクラス

優 勝	学生部	金子哲夫
準優勝	教養部	石川裕史
三 位	理学部	田村与市

〈将棋大会〉

本学レクリエーション委員会倶楽部会将棋班主催による昭和60年度学内将棋大会が去る3月15日(土)富山大学職員会館において実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

優 勝	工学部	畠山豊正
次 勝	教育学部	福村一男
三 位	工学部	前川清徳

昭和60年度全国公務員レクリエーション
共同行事富山地区ボウリング大会

昭和60年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ボウリング大会が、去る3月1日(土)立山グラウンドボウルにおいて、国土地理院北陸地方測量部の当番で開催されました。

競技は午後1時40分から始まり、3ゲームによる合計得点数によって団体戦及び個人戦の順位を決定する方法で実施されました。

本学からは、5チーム15名が参加しました。

なお、成績は次のとおりです。

団体戦

優 勝	富山食糧事務所
次 勝	中部運輸局富山陸運支局
三 位	富山大学C

個人戦

四 位	人文学部・理学部	山田知訓
-----	----------	------

寄 稿

〈遼寧大学のこと〉 (その2)

富山大学理学部 高 木 光司郎

8. 物理系

私は物理系に所属していたので、以下は物理系に限っての記述である。

物理系には、4つの専攻〔専攻, Speciality〕がある。物理学専攻, 光学専攻, 半導体器件〔デバイス〕専攻, 無線電電子学専攻〔電波, 電子工学〕である。〔 〕内は、日本的に言い直したものである。日本での

理学部と工学部の物理的部分を総合したものと理解すればよからう。一学年の学生定員は120名で、30名ずつ4専攻に別れる。これは、入学時に学生の希望と入試成績に従い決定される。

(1) スタッフ 教職員数は約90名で、内訳は85年1月現在、教授4, 副教授13, 講師約40, 助手14, 未定職18である。しかし、職員名簿がないので、正確に

はわからない。

教授は4人いるが、2人が物理専攻、1人が光学、1人が半導体で、電子工学にはいない。教授の年齢は、71、64、54、49である。年齢順に紹介すると、最長老の佟富功先生は光学専攻で東京文理大の戦前の卒業生である。文理大では分光学を研究された。今でも講義はされている様子であった。宮学恵先生は、旧制山形高校卒業、東北帝大を1945年に卒業し、卒業後も仙台で宇宙線研究室に10年近く所属し、その後、横浜国大で3年間教えた後に57年に帰国された。その後いくつかの大学をへて3年前に遼大へ赴任された。現在は素粒子論を研究していて、まだカクシヤクとして、十数名から成る研究室をリードしている。中国では代表的な学者で、1964年に開かれた物理の北京シンポジウムでは中国の4人の代表団の中の1人であった。

次は陳水先生で、この方は台湾出身で、中学校までは日本語で教育を受け、その後渡米しメリーランド大を卒業し1965年に中国に来られた。専門は統計力学である。最近まで物理系の主任であったが、今は指導者の若返りで主任から退いた。しかし、日本の参議員議員に相当する議員で、又、遼寧省の衆議院議員に相当する議員ということであった。佟、宮、陳先生はいずれも日本語が達者で、特に宮、陳両先生には達者などという言葉はかえって失礼に当るだろう。

最後の先生は、台湾出身でハーバード大を卒業した方で、教授として遼大へ赴任されたのだが、研究面でも教育面でも活動状況がよくわからなかった。

副教授は13人いる。このうち6名が理論で、4人が実験で、2人は学生実験専門で、1人は物理学史をやっている。年齢は1人が57才だが、あとの12人の年齢は54-45才の間の10年におさまる。講師・助手の人の年齢や専攻は聞かなかった。物理では、遼大の大学院を修了した人は、ほぼ確実に助手になれる。(後述する様に大学院入試は難関である。)そして2年経つと、自動的に講師に昇格する。だから、今講師の数は増加しつつある。

系を指導するのは主任で、2人の副主任に助けられている。主任は、学部の先生方の意見を参考にして学長がしかるべく人を選び、その人の同意を得て主任(或いは副主任)に任命する。日本での教授会に相当するものはない。主任・副主任が、物理系内の先生方の意見を参考にして、種々の決定を行う。主任・副主任の影響力の大きさ、責任の重さは容易に推察できる。主任は、日本の大学の教室主任というよりは学部長に近

い存在であると思う。中国全体の指導者の若返りを反映して、物理でも指導者は若い。主任の黄和齋さんは女性の副教授で固体の物性理論を専門とし年齢は40代後半。数学を担当する副主任の仲玉林氏、科学研究を担当する副主任の谷大成氏はいずれも40代前半の講師である。主任・副主任の仕事は激務だが、これらの若い指導者は、行政も研究も出来る人達である。仲玉林氏は、富山大工学部の宮下研に滞在されていた。もうすぐ副教授に昇進するということであった。指導者の若返りということ言えば、馮学長は1933年生れで、副教授である。

(2) 教育

自然科学の学生の取るべき単位については、教学指導書(6)を貰って来た。これは富山大の学生便覧の授業課目及単位数の所に対応するが、より詳しいもので各課目の内容(目次の一覧)と教科書、参考書が書いてある。なかなか興味あるものなのだが、紹介すると長くなるので、遼大の物理専攻と富山大の物理学科の講義内容を比較して特に目についたものを列記する。大きな点は、アメリカ等と似ていて、1年生から一貫した物理系の講義が行われていることである。それが4年の後期の前半まで行われ、後期の後半3ヶ月程、卒業研究が行われることである。大学1・2年は一般物理的な課目が多いが、我々よりはずっと一貫性が感ぜられる。たとえば、高等数学は物理系全員に対して1年の前期は毎週8時間(1時間は正味50分)、後期7時間、2年の前期4時間とかなり集中して行われ、物理の学生に対して数学的準備がまず行われていることがわかる。又、一学期も平均17~18週あり、4年の後期の前半まで講義が行われるので、授業課目を見ると同じ様なものだが、我々よりはずっと内容の豊かな講義となっていることが容易に推察できる。

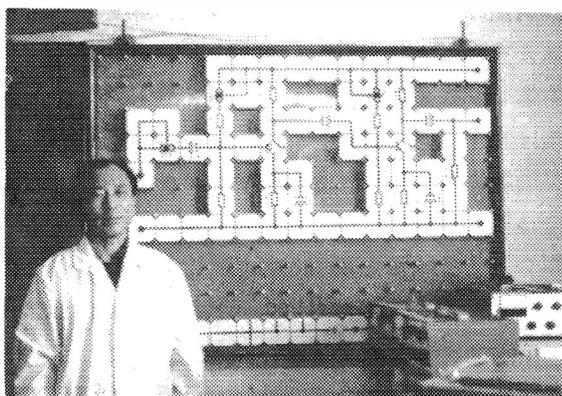
先生方に講義時間を聞くと、一週平均2.5回(1回は100分として)だということだった。物理系に教授・副教授・助手合わせて70人ほどだから、若干の大学院生に対する講義を考慮しても、少し講義時間が多すぎて、計算が合わない様な気がするが、そういう話であった。若い助手の人は、他の系(たとえば化学系)に対する物理の講義をしているから、話が合うのかも知れない。皆、講義や学生実験の指導やその準備がかなりの負担となっている様だった。

学期末には試験が行われる。1科目に追試が2回あり、5回追試を受けた学生は、単位はそろっても、卒業できない。しかし、そういう学生の数は少ない。米国

の教育事情にも詳しい陳水教授は、中国の大学教育は、入学者はなんとかして卒業させるという方針で、教師に対してdemanding（要求のきびしい）なシステムであると言っていた。アメリカは出来ない学生はどんどんflunk out（退学）させて行く、即ち、学生に対するdemandingな教育システムである。日本の大学はどうかと陳水先生に聞かれた。日本の多くの大学では、出来ない学生もそのまま卒業させて行くと私は答えた。日本の大学は教師に対しても学生に対してもnon-demandingなシステムであると思う。

（3）学生実験

興味があったので、実験装置や、実験している様子を見学させてもらった。1年から4年の前期まで、1週間に1回（時には2回）、午後行われる。1年2年は一般物理実験で、日本での教養課程での基礎実験にあたる。同じ装置が数台そろっていて、1台2～3人



電子回路実験（電子部分が四角のブロックではめ絵のようにして電子回路を組立てている）

で使う様になっている。3年では、電子回路を主体とする実験となる。これはIC、トランジスター、抵抗、コンデンサー等が、四角のブロックにつけてあり、それらをはめ絵の様に組合せて行けば、電子回路が作られるものである。このブロックは1ヶ30元位で買えて、方々の大学での実験に使われている。大きな部屋に、各回路毎に、オシロスコープや信号発生器が揃えてあり、これを1人又は2人で取扱っている。30人位の学生が一齐に共通のテーマで実験を行い、新しい回路を研究して行く。一般物理、電子回路の実験室にも実験中に1人又は2人の教官が必ずついていて、丁寧な指導が行われる。

3年の後期から4年の前期までは、近代物理実験学となる。これは週1回午前中の10時から昼休みをはさんで午後一様行われる。実験題目を第2表にあげる。題目の豊富さ、程度の高さに驚かされる。2人1組に

なっていて、1日で1テーマを仕上げる。感心するものばかりだが、ここではこの中から三つを選んで紹介する。

（7）のゼーマン効果は、水銀のスペクトルが磁場をかけると分裂するのをファブリー・ペロー干渉計で観察し解析するものである。（16）の電子スピン共鳴は、中空のソレノイドで弱い磁場を作り、これでラジオ波領域での共鳴を測定するものである。いずれもよく出来ていて、直感的に電子の磁気能率を捉えることが出来る。これらの実験に対してはどこの大学でも購入できるセットが中国で市販されている様だった。（27）は二原子分子AlOの電子スペクトルで、これは遼大特有のテーマである。担当の女性の趙講師に可視領域で振動状態によるバンドが現れているスペクトルを見せてもらった。始めてこの有名なスペクトルをこの目で見て、分光学専攻の私は恥かしい思いがした。

このような完備した学生実験はなぜ可能なのだろうか。第1に指導教官が豊富にいることである。いくつかの実験テーマ毎に、学生実験の指導に専念している教官がいる。又、多くの部屋には、その部屋つきの技官又は助手がいて、指導と設備の維持や改良に留意している。

第2に学生実験の内容が中国の大学の中でかなり統一されているらしいことである。私は大連の遼寧師範大学でも学生実験を見せてもらったが、内容、装置ともかなり共通している。上述の電子スピン共鳴の装置は、北京大学が開発して売出しているものを、どちらの大学でも使用している。他の装置も、学生実験用として売り出されているものらしかった。おそらく、大半のテーマと装置はどこの大学でも共通で、あとはその大学に特徴あるテーマがいくつか加わっていることが想像できる。このため、実験指導が楽に行えることである。日本の大学では事情は大いに異っている。日本の理学部では、教官の主たる仕事は研究であるということが通念になっていて、学生実験は、研究の傍らにたずさわるという感じがある。このため、学生実験の質の向上に、装置の面でも指導の面でも今一つ力が入らない。又、学生実験のテーマも各大学の教官がばらばらにテーマを考え、装置を作り、マニュアルを書く。このため、装置を更新したり新しいテーマをとり入れたりするのに、担当教官におおくの負担がかかる。これが学生実験の質の向上や種類の多様化を妨げている。

学生実験の話のついでにコンピューター実習についてふれる。10台のマイコンが、実習用にあって、物理系の学生は1人60時間、特に電子工学専攻の学生は120

時間の実習があるということだった。私が見学した時は、陸軍に属する短大の学生達が実習のためこれを使いに来ていて、遼大の先生が2人ついて指導していた。普通の学生実習でも丁寧な指導がなされるのだろうかと思った。

第二表 近代物理実験のテーマ(7)

- 0 実験誤差と数値処理
- 1 G-Mカウンターによる原子核崩壊の統計則の検証
- 2 ^{60}Co の放射能の絶対強度の測定
- 3 シンチレーションカウンターにより γ 線スペクトルの測定
- 4 吸収法による β 線の最大エネルギー
- 5 NMR-g因子と磁気能率の測定
- 6 ホール効果
- 7 ゼーマン効果
- 8 マイケルソン干渉計
- 9 水素原子のスペクトル
- 10 Na原子のスペクトル
- 11 ホログラフィー
- 12 真空技術
- 13 X線技術
- 14 電気抵抗の温度変化と減圧降温技術
- 15 フランク・ヘルツの実験
- 16 電子スピン共鳴
- 17 マイクロ波の基本量の測定(定在波比等)
- 18 ミリカンの実験
- 19 メスバウワー効果
- 20 水素原子(HとD)のスペクトル
- 21 マイクロ波ブラッグ反射の実験
- 22 CASIO FX-702P型計算機の使用法
- 23 図形の認識
- 24 二次露光法による微小変位の測定
- 25 光速の測定
- 26 磁気光学的効果
- 27 A10二原子分子の電子スペクトル, 振動スペクトル

(4) 受講

実際どのような講義が行われるか、おおいに関心があったので、物理系にお願いして分光学と量子力学と物理光学の講義に出席させてもらった。私の出席した順に紹介する。

分光学の講義は、光学専攻の30名の学生に対する選択科目である。8時からの講義で、私は7時55分頃教

室に着いた。予め連絡してあったのだが、拍手で迎えられたのには驚いた。席について気が付いたのは、学生の席が全員きまっていた、しかも殆んど全員が出席していることだった。8時丁度に始業のベルが廊下に鳴り渡ると先生は教壇に立ち、生徒は全員起立、礼を交わして授業開始である。その直後に1人の生徒がすべり込み、講義が始まった。二原子分子の電子状態の話で、楢岡座標を導入して話を進めて行く。中国語はわからないが、黒板を見ていれば、話の内容は見当がつく。5分後くらいに、1人遅刻者。教室にはドアの前に1つあるだけで恥かしそうに入って来て、先生に一言何か言われて席についた。講義は50分間であるが、フントのケース(a), (b)の説明まで行われ、随分進んだ。詳しい様でもあり、サーッとやった様でもあったが、かなり本格的な二原子分子のスペクトルの導入部が講義された。学生がどの程度理解できるのかは、判断つかなかった。私は真中辺に席を取って私より前の方の学生達を見ていたが、殆んどどの学生はノートをとり、講義を熱心に聞いている。しかし、3人の学生は全く授業を聞かず、他の本を読み、或いは、英語の勉強をしていた。8時50分に、終業のベルが鳴り、先生はヘルツベルグの有名な本の第1巻を参考書として紹介しそそくさと講義を打切った。私は、又、拍手をされて教室を去った。この講義は10分の休憩の後、9時50分まで行われる。

量子力学の講義は物理系の4年生全員120人に対する講義で大教室で行われる。これは席がきまっていないので、後の席を取った人は、講義中も他のことをやっていた。しかし全般におとなしく講義を聞いている様であった。どちらの講義にも学生の質問はなかった。

正規の講義の他に輔導(フーダウ)という制度がある。昼間の講義の後で、夜に希望する学生を先生が指導するものであった。昼間の講義について学生が色々質問するのだと思い、素晴らしい制度だと思った。しかし、出席してみると、12人の学生の中、半分は、英語の勉強をし、他の人々も、実験の教科書を見たり、他の勉強をしたりで、自習時間を先生が監督している様な感じであった。輔導をやるのはごく一部の先生だけであったが、どうも輔導が形式的にやられている様な印象を受けた。

私は、この時間を少しもらって、学生の人々と話をして見た。学生達は興味津々で私に日本の大学のことを色々質問した。日本の大学にはどんな講義があるか。学生はどの位、勉強するか。何をして遊ぶか。会

社の初任給は、私のサラリーは等々。私の方から聞いたことの一つは、卒業後の進路であった。一番の希望は、大学院進学だが、30人中22人希望していたが、2人しか受からない。結局大半の人は、会社に行くことになるが、自分の希望とは殆んど無関係に自分の進路が決定される。学生達はそういう状況をあきらめて受け入れている様だった。

(5) 研究

私が遼大へ来て、遼大の科学者達と共同実験をすることを楽しみにして来た。予め、ここではラマン分光(CARS)をやっているという連絡を受けていたので、私は経験のないこの手法について勉強できることを楽しみにしていた。しかし、残念ながら私は一度もこの実験研究をする機会がないまま瀋陽を去ることになった。遼大側に十分実験研究に対する態勢ができていなかったためであるが、この研究体制の実情と私の感想をのべようと思う。

私が遼大の物理系を副主任の仲玉林氏に見せて頂いた最初の日に、私は朝から方々の部屋へ連れていってもらい、見事な学生実験を見せて頂いた。それについては、すでに書いた。昼食の時間が来て、私達は別れ、私は大いに感心して宿舎にもどり、宿舎の食堂で食事をした。そのうちに何か違うなという感じがして来た。どうやら私の机が物理系にはないらしいということに気がつき、次に、私は一つも研究者のいる実験室を見ないことに気がついたからである。

(5 a) オフィス

第一の疑問はすぐに解決した。遼大の先生方は一人として、自分のオフィス又は机を物理系の建物には持っていないのである。まして、私のような客員が机を貰うこと等あり得ない。この点に関して、私は宮教授に訊ねて見た。宮教授の答は、10億の人が住宅難にあえいでいるのに、到底、個人のオフィス等持てないということであった。オフィスがないというのは間違いで、オフィスは、自分の宿舎なのである。私が見た他の大学でも先生のオフィスはない様だった。中国の大学の先生は、朝食をすますと大学の研究室へ行くというスタイルでは行動しない。講義があればその講義に行く。終えれば宿舎に戻り、食事をし、必要があれば又出勤する。実験系の先生でも、自分の実験室を持たず、学生実験室しか持っていない者も少なくない。私が最初、仲先生に見せて頂いた時も、いくつかの部屋に鍵がかかっていたが、そこが大体において研究用の実験室であった。このため、大学にいて会いたい先

生に会うという様なことは、とてもやりにくい。予め、何々先生に何々の用で会いたいということを物理系に告げておけばその様なアレンジがなされ、私のオフィス(即ち宿舎)に誰かが迎えに来て、彼に連れられて然るべき場所に行くとなれば先生と会い、必要な話が終えれば、それでは又と言って、それぞれ自分の宿舎に帰って行くということになる。実験室やオフィスに必ず人がいて、そこに行けば、いつでも話が出来たり実験が見られるというスタイルに慣れている我々にとっては、これは何ともやり難いシステムである。私はこのスタイルになかなかなじめず、何度か物理系の建物へ行き、私がそこで実験することになっている実験室へ行ったが、大抵は鍵がかかっている手がかりが掴めないまま、又、自分の宿舎に戻るのであった。

(5 b) 言葉の壁

遼大の先生方の中で外国語として一番よく通じるのは日本語である。次に英語とロシア語。外国語が殆んど通じない先生方もたくさんいる。

たとえば物理系の4人の教授のうち、3人の先生が日本語を話すことは既に書いた。50代後半又はそれ以上の先生方の中には、日本又は日本語で教育を受けた方が少ない。又若い助手の中では、日本留学を目ざして日本語を勉強している人も多い。この人達は日本語の本で物理を勉強をしているので、聞きとりは不十分でも、なんとか日本語で用がたせる。

次に50前後の方は、外国語としてロシア語を勉強し、ロシア語の本で物理を勉強したので、ロシア語が読めて、会話のできる人もいる。しかし、40代の人となると、ロシア語を習ったが、その後、中国では外国語が英語にきりかわり、ロシア語も忘れてしまい、仕事の片手間では英語も十分に勉強できない。そのうちに文革という空白の10年間があり、その後、気をとりなおして英語の勉強を始めたが、なかなか進まないといった人が多い。研究者として主力をなすべきこの年代層に、英語の文献をあまり読まない人が多いのは一つには英語の力の不足から来ている。この人達と、意志の疎通をはかるのは、困難である。簡単な事項でも英語で紙に書き、それを辞書片手に解説してもらうとなると、少しこみ入ったこと等話そうとする時に、最初から話すことをあきらめてしまう。勿論、私が中国語を話せないのが悪いといわれればそれまでである。私も泥縄式ではあるが中国語の勉強を若干したのではあるが、発音の難しさに辟易するばかりで、仲々、実用までは行きそうもない。共通の言葉がないという事情は、中

国の学者との交流を大きく阻む障壁の一つである。

(5c) 研究室と研究者

実験系で私と接触が深かった光学専攻の研究室についてまずのべる。ここでも、実験室を見せてもらうと、それがたいへい学生実験のためのものであったが、研究のための実験室を紹介する。

1つは、私がそこで働くことになっていたレーザー分光の実験室で、趙講師が作った、ラマン分光計(CARS分光計)があった。Qスイッチのルビーレーザーをベンゼンに照射し、ベンゼンから出る誘導ラマン光とルビーレーザー光を水中に微量に溶かしたベンゼンに照射する。この時得られる反ストークス光(CARS)を分光計で検出するものである。バックグラウンドを落とすため、二台の中国製のモノクロメーターを直列につないで使っている。単純な装置であるが、高感度であり、これで10PPBのベンゼンを検出したということで、論文を投稿していた。

私は、この装置で実験をしたいという希望を遼大に行く前から述べてあり、又、遼大に着いた直後から、まず、実験をする所を見たいと希望した。しかし、宿舎で待っていて、必要な時だけ大学へ行くという生活のため、何もしなくても時間が過ぎて行く。何度か私は実験室へ足を運んだが、大抵は、ドアに鍵がかかっていた。ある時は、ドアは開いたが、中では人が本を読んでいた。

3週間以上もたって、やっとルビーレーザーのルビー棒がないために実験が出来ないという事情がわかった。2月にルビー棒に損傷が生じ、6月に上海に修理に出し、それがまだ来ないので、この8ヶ月間実験をしていないということであった。ルビー棒は10月中には出来上るということであったが、聞かたびに到着が遅れ、結局、私が瀋陽を発つ2日前に来た。私は一度も実験を見ないまま瀋陽を去った。

又、別の1人の先生は、非線形光学や情報光学(フウリエ変換を利用して新聞の縮小等を行う)を研究されていた。今は実験室を若い助手の人にあげてしまった。しかし、その人が英語の勉強ばかりしていて、使っていないという実験室を見せてくれた。大きな防振台の上に、大きなミラーマウントがいくつか並べてあった。

又、別の1人の先生は、種々の金属の蒸着膜をガラス上に作り、特徴のある分光透過率を持ったガラスを作っていた。この方は、応用に徹していて、いくつか特許を持っているらしかった。この辺りが、研究をし

ている研究室であった。光学専攻に十数名のスタッフのいることを考えると、この研究活動は、あまり活発とは言えない。

半導体器件の専攻も、曾って優秀な女性の研究者がいて研究活動が活発であったが、その人が他の研究所へ移ってからは余り活発な動きはないという話であった。仲玉林氏も、研究は会社で行っているということであった。無線電電子でも、優秀な方が自分で研究所を作って、大勢の人をひきつけて行ってしまったという話を聞いた。現在の所、実験系では活発な研究活動が乏しい様であった。

物理専攻の中では、宮先生の研究室が理論の面で活発な研究活動を行っていた。このグループは原子及び亜原子と称して、宮教授のもとに、若手の副教授や講師が中心となり、素粒子論、原子衝突の理論、及び一部の実験を包含している。毎週一回ゼミナールが開かれ、私も言葉は分からないながら、これに参加していた。論文紹介や、自分の仕事の進捗状況の紹介があり、活発な議論が行われていた。このグループは中国の中でも高い評価を受けていて、千副教授は、日本のレベルで考えても高額な科学研究費の交付を受けていた。同氏は、広島大学で博士号をとり日本の研究者の間でもよく知られている。

(5d) 研究者としての意識

ラマン分光の実験は、昨年は毎日の様に夜までやっていたという話を聞いた。私の行った時期が悪かったのかも知れない。実験室を譲り渡した先生も、よく実験をやるという評判であった。しかし、これらの先生にしても自分が研究者であるという意識が稀薄である様に思われる。他の多くの先生は、教育に重点をおいていて、あまり研究をしていない様に見えた。

研究活動が活発でない理由は、色々ある。研究設備が貧弱なこと、情報交換の乏しいこと等がすぐあげられる。これは否定できないが、一番の問題は、先生方に、自分が研究者であるという意識が乏しいことだと私は思う。教育が第一で、研究はやりたい者がやるという大学全体の風潮があると思う。この風潮が個人に反映している。宮先生が「問題は金ではない、どんな条件でも研究をすれば、トップレベルと云えないまでも、その人なりの独特のピークで仕事は出来るはずだ」と言っておられたが、私もその通りだと思う。

この様な話をする時、いつでも思い起こさねばならないのは、1965年頃から10年間続いた文化大革命の空白である。先生方と話をしていると、この間は、誰も

が全く研究と関係のない仕事を強制され、或いは半年、或いは2年間と軟禁された方々も多い。研究は持続した意識の集中を必要とするから、この空白が研究活動に与えた影響の大きさは容易に想像される所である。

若い世代について私が残念に思ったことは、大学院を出たての優秀な助手達が、若干の講義と、外国留学を目指した語学の勉強に自分の時間を費やし、殆んど研究しないことであった。そして、それが自他共に当然なこととして受け取られていることであった。伸びる芽が、その場所を与えられないまま、凋んでしまうのではないか、見ていて痛々しい気がした。

(5e) 教育と研究

私は、4年生までの講義や学生実験が素晴らしいことを既にのべた。しかし、大学院での研究活動は、結局、先生が研究している範囲に止まるから、先生の研究活動が不活発である時は、それがそのまま大学院学生の研究活動に反映し、学生がその能力を十分に伸ばせないことになる。(話は、我々についても言えることである。)

(5f) 世界銀行

中国では、今、世界銀行から多額な金を借りて、これにより大学の質の向上をはかる計画を実施中である。第一期は、重点大学28校が一枚当たり数百万ドルの金を支給された。これは、主として、実験設備の購入にあてられ、計算機、液化機、レーザー、各種の高価な測定器等の最新鋭機が一枚に各大学に出現することとなった。この計画は、来年から第二期に入り、遼大クラスの大学が対象となる。遼大でも来年は210万ドルの金の導入を予定していて、物理でも50万ドル程度を予定していて、装置の購入を計画している。おそらく1~2年後には、最新鋭のレーザーと測定器が、レーザー分光の実験室内に威容を誇るようになるだろう。

この計画で設備は一枚に近代化するが、よい研究が出て来るには、かなり時間がかかると思う。まず研究している人がいて、その人が必要な装置を買うというのが本来の順序である。今の中国の計画はどちらかというと、まず金が来て、さて金があるから装置を買い、それで何かやれる実験を探そうという逆の順序になっている。しかしこういう試行錯誤を経て、研究が進んで行くので、その成り行きを長い眼で見る必要があるのだろう。

9 外事処

中国の大学、研究所、或いは市役所といった組織には、必ず外事処又は外事弁公室(外弁(ワイバン)と

いう)があり、それが、客の接待を取りしきっている。外弁には有能な事務官がいて、金も力も持っている。大学に客があれば、外弁の金で豪華な食事に招待することも出来る。外弁は宿舎を管理していて、客も泊めることも出来る。私の日々の生活やスケジュールは全部外弁の管轄下にある。外弁に独立には、殆んど行動は出来ないが、外弁を通せばすべて外弁の費用で賄ってくれるということになる。

私は帰国に際して北京-合肥-上海という11日間の旅行を計画した。このうち、合肥は合肥光学精密機械研究所の招待であった。北京と上海では、私は行きたい研究所と、会いたい研究者があった。こういう旅行の希望を出すと、外弁は物理教室と連絡を取り、先方と密接な連絡を取り、旅費や宿泊費の分担を決め、旅行のスケジュールを作り直す。一旦このスケジュールが出来ると、あとは、行く先々で、そこの外弁の事務官や又は世話をしてくれる研究者が空港や駅まで出迎え、最後は又見送ってくれる。外国人が独力で切符を買うのは大変らしく、又、普通のホテルは恐ろしく高い。その土地の外弁の指示に従い、はじめてスムーズで快適な旅行が出来る。又、私の11日間の旅行は、遼大の若い助手の司金海氏がずっと付けてくれて、切符の購入、種々の連絡、ホテルやレストランの支払い等一切の世話をしてくれた。私は旅を楽しんでさえいればよかった。

富山大学においても、中国からの学者の受入れが増すと思うが、我国には外弁という事務もないし、外弁のための金もない。教官数も少ない。日本の情を考えると、中国で我々が受ける様な接待は、日本では出来ないと思う。その代り、日本では研究の面で大いに便宜をはかることが出来る。この辺、日本或いは富山大としての日本の現状に適した原則をきめておく必要がある様に思われる。

10 留学生

遼大には外国人留学生がいて、中国語を勉強しているが、数としては日本人が断然多く30人近くいた。アメリカ、ドイツ、オーストラリア等からも来ていた。留学期間は、1年間の人、2年間の人半々位で、私費の人、国費の人半々位である。今、留学生の1年間の費用は、授業料と宿舎費合わせて、5,000円で食費は別にかかる。食費も含めて毎月200元あれば楽に暮せる。往復の旅費を別にして、1年間7,000~8,000元(50万円)で、中国での留学生生活が出来ると。短大を卒業した人、4年生大学を休学している人、卒業後の人、会

社から来ている人、修士を休学している人、修士を終えた人、博士を休学している人、郵便局に永年勤めた後で来ている60近い人、様々な年代、種々な個性を持った人がいる、食堂でいつも顔を合せていて少しずつ付き合いも深くなって行った。この人達は学業以外にも活発な活動をしていたがこれに関してはややこの文章の範囲を逸脱するので、ここではふれない。

11 私の生活

專家楼という外国人教師や研究者のための鉄筋3階の宿舎に私は住んでいた。10畳位の大きさの部屋が二つあり、一室は居間で、他の一室は寝室である。居間には来客用のソファアがあり、戸棚やカラーテレビもある。寝室にはベッド、大きな勉強机、洋服ダンスがある。床にはジュータンが敷いてある。窓は二重窓で、暖房はスチームである。廊下を隔ててバスルームがあり、専用のバス、トイレがある。私は、最初、一階にいて、後に二階に移ったが、南向きの二階の窓からは葉が半分黄色になった高いアカシヤの木が見えた。

食事は留学生食堂で行う。朝が7:10から、昼は12:00から、夜は5:20からであって、それぞれ40分位で終えてしまう。三食ともおかずは二皿以上たっぷり出て、朝はかゆ、昼、夜は主に御飯で、夜はビールももらえる。この食事には私はすっかり満足していた。宿舍費も食費も、私は全部只で、他に十分な生活費をもらった。

富山大と遼大の協定のよい所は、講義の義務が特にない所で、研究に打込めることである。最初に顔見せに3時間程、先生や学生の前で、レーザー分光の講演をしたのと、後で何かやってくれと言われて、光学専攻の先生方の前で、2日間、午後3時間程、自分の仕事を中心にして、レーザー分光の話をしただけで、学生向きの講義はかんべんして貰った。あと毎週土曜の午前中、宮研究室のゼミに参加して、自分の仕事からトピックスを選んで行って、それについて話した。話は、すべて日本語で話し、千文甲先生（一度は陳水先生）が通訳してくれるので、何とも楽であった。

9月の末に瀋陽についたが、10月1日の国慶節の前と、新学期開始直後と重なり、着いた当座は、よくパーティーがあった。留学生招待の3泊4日の丹東旅行に参加したのも楽しい思い出である。日曜には、市内遊覧や近所の名所旧跡の観光に大学の車で連れて行ってもらった。そういう意味では至れり尽せりであった。

特に物理系の多くの先生には暖かく迎えていただき、一緒に食事をしたり、又、家に招待して頂いて歓談し

たりで、とても気持ちよく暮すことが出来た。又、宿舎にも物理系の方々が夕食後訪ねて来て下さり、歓談することが出来た。私は中国について、遼大について知りたいことで一杯だったので、いつも会話から新しいことを知り、付き合いが楽しくてならなかった。これらの会話が日本語で出来るというのは何とも有難いことであった。

最後に、私の遼大滞在が快適だったのは、千文甲副教授の人柄と暖かい心遣いによる所が大きい。改めて感謝したい。千先生は常に明日を信じている楽天主義者である。千先生の次の言葉が忘れられないので、最後に、この言葉でしめくりたいと思う。「中国人12億が、日本人の様に能率主義でやったら、何でも世界一になってしまって、世界中が困るでしょう。」

末尾ながら、中国への往復の旅費を援助して下さいました田村科学技術振興財団に心からお礼申し上げます。

引用文献

- (1) 刘志超、王治国編「遼寧大学」（遼寧大学出版社、1985）
- (2) 三宝政美「遼寧大学雑感」富山大学学报第255号8-10頁（1985年2月1日）
- (3) 三宝政美「瀋陽瞥見」富山大学学園ニュースNo.9-10頁（1985年）
- (4) 「中国統計年鑑」（中国統計出版社1984年）
- (5) 富山大学庶務課編「富山大学概要」（昭和60年度）
- (6) 遼寧大学編「教学指導書」（1985-1989）
- (7) 遼寧大学物理系編「近代物理実験講義」（1985年2月）



職 員 消 息

《新任者》

庶務部

庶務部長 西垣 登

人事課長 中川 忠

給与係長 五百崎喜明

文部事務官 草島 伸雄
(庶務課文書係)

経理部

主計課長 小松 東男

管理係長 羽根 俊

学生部

次 長 花岡 勉

文部事務官 西尾 久
(厚生課寮務係)

教育学部

教 援 永野 弘
(物理学)

教 授 寺崎 章二
(歴史学)

助 教 授 栗原 幹夫
(数学教育)

講 師 松本 清
(器 学)

講 師 原田 嘉昭
(国語科教育)

文部事務官 加藤 尚弘
(物理学教室)

附属小学校

副 校 長 利波 宗雄

教 諭 塚田みゆき
(音 楽)

附属中学校

教 諭 丹保 裕
(社 会)

教 諭 高井 真琴
(英 語)

教 諭 小川 美子
(体 育)

附属幼稚園

教 諭 辰尾 仁美

事務補佐員

工学専門図書室 村 裕子
(閲覧係)

附属養護学校

教 諭 早川 隆志

保健管理センター

文部技官 宮島智恵美
(看護婦)

教 諭 高畑 庄蔵

教 諭 酒井真由美

住所変更

施設課

文部技官 高島 正信

工 学 部

文部事務官 北川 敬信
(用度係)

文部技官 桐 昭弘
(工業計測)

人文・理学部

事務補佐員 松山 永子

教 養 部

講 師 大川 信行
(保健体育)

文部事務官 松田 義弘
(会計係)

文部事務官 石塚 久博
(教務係)

教育学部

助 教 授 三浦 鏡子

助 手 丸山 茂徳

理 学 部

助 手 松原 勇

附属図書館

閲覧係長 田中大四郎

文部事務官 小森 功
(参考係)

工 学 部

助 教 授 白鳥 一

用度係長 林 征紀

各種委員選考委員会
 学部補導委員会
 3月19日 学部将来構想検討委員会

理 学 部

3月11日 教授会, 理学研究科委員会, 人事教授会
 17日 学部教務委員会
 事務連絡会
 22~25日 物理学科第2次募集入学願書受付
 25日 学部卒業証書並びに理学研究科修士学位記
 授与式(於: 理学部第10講義室)
 26日 入学者選抜調査書審査(第2次募集)
 28日 教授会
 29日 物理学科(第2次募集)合格発表

工 学 部

3月3日 学科主任会議
 10日 入学試験検討委員会
 11日 教授会
 工学研究科委員会
 専任教授会
 13日 選考委員会
 学部教務委員会
 20日 係長連絡会

教 養 部

3月4日 視聴覚教育委員会
 5日 補導委員会
 教務委員会
 教授会
 人事教授会
 7日 夜間主コースに関する経済学部との合同会
 議
 10日 夜間主検討委員会
 12日 施設整備委員会

13日 図書委員会
 13~19日 スキー実習(於: 志賀高原発晴スキー場)
 26日 予算委員会
 教務委員会
 夜間主検討委員会
 人事教授会
 教授会

附 属 図 書 館

3月3日 係長事務打合せ会
 10日 地図情報室小委員会
 26日 第6回附属図書館商議会
 28日 電算化ワーキンググループ打合せ
 東京大学文献情報センターとオンライン接
 続

トリチウム科学センター

3月1日 第4回トリチウム科学センター運営委員会
 12日 R.I特別健康診断

保健管理センター

3月
 2~3日 昭和60年度北陸地区国立5大学合同健康増
 進合宿セミナー(於: 極楽坂スキー場やま
 ふじ山荘)

経営短期大学

3月6日 教授会
 19日 将来構想委員会(経済学部と合同)
 20日 教授会
 22日 卒業予定者と教職員及び在学生との懇談会
 25日 経営短期大学部卒業証書授与式
 (於: 富山市公会堂)

資 料

昭和60年度卒業（修了）者数

・学 部

昭和61年3月25日付

・大学院

昭和61年3月25日付

学 部	学科（課程）	卒 業 者 数
人文学部	人 文 学 科	81
	語 学 文 学 科	75
	計	156
教育学部	小学校教員養成課程	138
	中学校教員養成課程	43
	養護学校教員養成課程	20
	幼稚園教員養成課程	28
	計	229
経済学部	経 済 学 科	101
	経 営 学 科	108
	経 営 法 学 科	63
	計	272
理学部	数 学 科	28
	物 理 学 科	29
	化 学 科	34
	生 物 学 科	23
	地 球 科 学 科	24
	計	138
工学部	電 気 工 学 科	50
	工 業 化 学 科	31
	金 属 工 学 科	27
	機 械 工 学 科	36
	生 産 機 械 工 学 科	37
	化 学 工 学 科	28
	電 子 工 学 科	39
	計	248
合 計	1,043	

研 究 科	専 攻	修 了 者 数
理学研究科	数 学 専 攻	2
	物 理 学 専 攻	7
	化 学 専 攻	6
	生 物 学 専 攻	3
	地 球 科 学 専 攻	2
	計	20
工学研究科	電 気 工 学 専 攻	6
	工 業 化 学 専 攻	11
	金 属 工 学 専 攻	10
	機 械 工 学 専 攻	2
	生 産 機 械 工 学 専 攻	4
	化 学 工 学 専 攻	4
	電 子 工 学 専 攻	5
	計	42
合 計	計	62

・専攻科

昭和61年3月25日付

専 攻 科	修 了 者 数
文 学 専 攻 科	10
教 育 専 攻 科	3
経 済 学 専 攻 科	0
合 計	13

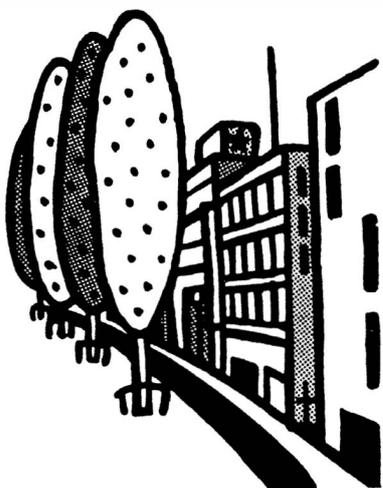
・経営短業大学部

昭和61年3月25日付

専 攻	卒 業 者 数
経 営 管 理 専 攻	39
経 営 法 律 専 攻	30
合 計	69

昭和61年度授業日程表

学部等	前 学 期		夏季休業	後 学 期		冬季休業	備 考
	授業(補講を含む)	期末試験		授業(補講を含む。)	期末試験		
教養部	4/11~7/14, 9/1~9/13	9/16~9/29	7/15~8/31	10/15~12/23, 1/12~2/18	2/19~2/27	12/24~1/10	経済学部夜間主コース
	4/11~7/10, 9/1~9/18	9/22~9/29	7/11~8/31	10/15~12/23, 1/12~2/18	2/21~2/27	12/24~1/10	
人文学部	4/14~7/12, 9/1~9/13		7/13~8/31	10/13~12/20, 1/12~2/14		12/21~1/11	集中講義 7/14~7/19 9/16~9/20 12/22~2/26 2/16~2/21
教育学部	4/7~7/16	7/17~7/23	7/24~8/31	10/20~12/20, 1/8~2/14	2/16~2/21	12/21~1/7	教育実習 9/1~10/18
経済学部	4/9~7/15, 9/1~9/9	9/10~9/19	7/16~8/31	10/15~12/23, 1/7~2/13	2/14~2/23	12/24~1/6	オリエンテーション 10/14
理学部	4/14~7/12, 9/1~9/13		7/13~8/31	10/15~12/23, 1/12~2/14		12/24~1/11	物理学基礎実験 7/14~7/19 化学実験 9/16~9/22 生物学実験 4/7~4/12 地球科学実験 3~10/9
工学部	4/14~7/12, 9/1~9/20		7/13~8/31	10/17~12/25, 1/12~2/21		12/26~1/11	
経営短大	4/11~7/19, 9/8~9/13	9/16~9/20	7/21~9/6	10/1~12/23, 1/9~1/31	2/2~2/7	12/24~1/8	



編集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話 (24) 1755(代)